

ピアノレッスン A			野戸智美／他 17 名	
必修科目	実技	1 単位	1 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスン A」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> ・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。 ・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。				
<授業の到達目標> ・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。 ・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。 ・グレード 6 級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。				
<授業方法> ・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。 ・習熟度に合わせたグレードを受験することができる。				
<授業計画> 第 1 回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え グレード設定。 第 2 回：バイエルNo.1～No.9。正しい姿勢 椅子の高さ 指の位置。 第 3 回：バイエルNo.10～No.20。指使い 正確な音の長さの理解について。 第 4 回：バイエルNo.11～No.20。指使い 正確な音の長さの理解スラーについての確認。 第 5 回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置。 第 6 回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置の確認。 第 7 回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から 8 分音符までの正確な音価。 第 8 回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から 8 分音符までの正確な音価の確認。 第 9 回：バイエルNo.51～No.79。スタカート アウフタクト ヘ音記号。童謡任意弾き歌い。 第 1 0 回：バイエルNo.51～No.79。分散形伴奏 ト長調。童謡任意弾き歌いの確認。 第 1 1 回：バイエルNo.80. 83. 85。前打音 手の交差奏法 ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。童謡任意弾き歌い。 第 1 2 回：バイエルNo.88. 89. 90。16 分音符の早い動き 16 分休符の意識。童謡任意弾き歌い。 第 1 3 回：バイエルNo.91. 93. 95。イ短調 6 度の奏法。童謡任意弾き歌い。 第 1 4 回：バイエルNo.96. 97. 98。前打音装飾音符 3 度の動き。童謡任意弾き歌い。 第 1 5 回：バイエルNo.80～No.98. の中より任意の 2 曲 童謡の中より任意の 2 曲 ※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。				
<授業時間外学修> 事前事後の練習を基本とする。				
<テキスト> 「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー 25 の練習曲」 全音楽譜出版社 「保育実用書シリーズ こどものうた 2 0 0」小林美実編 チャイルド社 「童謡曲集」、「マーチ曲集」 聖ヶ丘保育専門学校				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領(平成 2 9 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 2 9 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
<成績評価> 実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90% 受講状況 10% 60～69 点を「可」・70～79 点を「良」・80 点以上を「優」として単位を認定する。				
<備考> 初回のガイダンスを良く理解し授業に臨むこと。				

ピアノレッスンB			野戸智美／他 17 名	
必修科目	実技	1 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンB」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> ・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。 ・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。				
<授業の到達目標> ・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。 ・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。 ・グレード6級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。				
<授業方法> ・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。 ・グレード10級～1級はグレード試験を受験することができる。				
<授業計画> 第1回：グレード設定の確認。 バイエルNo.99. 100. 101. 102。 複付点音符 ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い マーチ。 第2回：バイエルNo.99. 100. 101. 102。 童謡任意弾き歌い マーチ。 第3回：バイエルNo.103. 104. 105。 半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。 第4回：バイエルNo.103. 104. 105。 童謡任意弾き歌い マーチ。 第5回：バイエルNo.103. 104. 105。 童謡任意弾き歌いマーチの確認。 第6回：バイエルNo.100. 102. 104. 105。 の中より任意の2曲 童謡マーチの中より任意の2曲。 第7回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」 第8回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から「おとのマーチ」 第9回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」 第10回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.4 童謡 マーチの中から「お料理行進曲」 第11回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.5 童謡 マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」 第12回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.6 童謡 マーチの中から「カレンダーマーチ」 第13回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.7 童謡 マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」 第14回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.8 童謡 マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」 第15回：ブルグミュラー 25 の練習曲No.9 童謡 マーチの中から「バースデー・マーチ」「パレードマーチ」 ※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。				
<授業時間外学修> 事前事後の練習を基本とする。				
<テキスト> 「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー 25 の練習曲」 全音楽譜出版社 「保育実用書シリーズ こどものうた200」小林美実編 チャイルド社 「童謡曲集」、「マーチ曲集」 聖ヶ丘保育専門学校				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
<成績評価> 実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90% 受講状況 10% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。				
<備考> ピアノレッスンAに準ずる。				

ピアノレッスンC			野戸智美／他 17 名	
必修科目	実技	1 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンC」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> ・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。 ・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。				
<授業の到達目標> ・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。 ・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。 ・グレード6級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。				
<授業方法> ・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。 ・グレード10級～1級はグレード試験を受験することができる。				
<授業計画> 第1回：グレード設定の確認。 バイエルNo.99. 100. 101. 102。 複付点音符 ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い マーチ。 第2回：バイエルNo.99. 100. 101. 102。 童謡任意弾き歌い マーチ。 第3回：バイエルNo.103. 104. 105。 半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。 第4回：バイエルNo.103. 104. 105。 童謡任意弾き歌い マーチ。 第5回：バイエルNo.103. 104. 105。 童謡任意弾き歌いマーチの確認。 第6回：バイエルNo.100. 102. 104. 105。 の中より任意の2曲 童謡マーチの中より任意の2曲。 第7回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」 第8回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から「おとのマーチ」 第9回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」 第10回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.4 童謡 マーチの中から「お料理行進曲」 第11回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.5 童謡 マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」 第12回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.6 童謡 マーチの中から「カレンダーマーチ」 第13回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.7 童謡 マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」 第14回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.8 童謡 マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」 第15回：ブルグミュラー 25 の練習曲No.9 童謡 マーチの中から「バースデー・マーチ」「パレードマーチ」 ※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。				
<授業時間外学修> 事前事後の練習を基本とする。				
<テキスト> 「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー 25 の練習曲」 全音楽譜出版社 「保育実用書シリーズ こどものうた200」小林美実編 チャイルド社 「童謡曲集」、「マーチ曲集」 聖ヶ丘保育専門学校				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
<成績評価> 実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90% 受講状況 10% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。				
<備考> ピアノレッスンAに準ずる。				

ピアノレッスンD			野戸智美／他 10 名	
選択必修科目	実技	1 単位	3 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンD」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> ・伴奏法、弾き歌いを含む鍵盤楽器演奏技術の向上を目指す。 ・多様な楽曲に触れることで豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力を修得する。				
<授業の到達目標> ・鍵盤楽器演奏に求められる技術を修得する。 ・楽譜を正しく読み解き、楽曲への理解を深めることができる。 ・楽曲を豊かに表現することができる。				
<授業方法> ・履修者に必要な課題を中心に授業計画を立て、習熟度に合わせた曲目を選択し、個々の演奏技術向上を図る。				
<授業計画> ※取り扱い楽曲は個々の習熟度により異なる。 第1回 ガイダンス・レッスン編成 第2回 バイエル・こどものうた 第3回 バイエル・こどものうた 第4回 バイエル・こどものうた 第5回 バイエル・こどものうた 第6回 ブルグミュラー・こどものうた 第7回 ブルグミュラー・こどものうた 第8回 ブルグミュラー・こどものうた 第9回 ブルグミュラー・こどものうた 第10回 ブルグミュラー・こどものうた 第11回 ブルグミュラー・こどものうた 第12回 ブルグミュラー・こどものうた 第13回 ブルグミュラー・こどものうた 第14回 ブルグミュラー・こどものうた 第15回 実技試験・まとめ				
<授業時間外学修> 事前事後の練習を基本とする。				
<テキスト> 「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー 25 の練習曲」 全音楽譜出版社 「保育実用書シリーズ こどものうた200」小林美実編 チャイルド社 「童謡曲集」、「マーチ曲集」 聖ヶ丘保育専門学校 等				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
<成績評価> 実技試験 80% 受講状況 20%				
<備考> 初回のガイダンスを良く理解し、事前事後の練習を十分に行った上で授業に臨むこと。				

ピアノレッスンE			高橋拓真／他5名	
選択必修科目	実技	1単位	3年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンE」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> ・発声の基礎と童謡歌曲等の歌唱法を修得する。 ・伴奏法、弾き歌いを含む鍵盤楽器演奏技術の向上を目指す。 ・多様な楽曲に触れることで豊かな音楽性を育み、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力を養う。				
<授業の到達目標> ・発声の基礎と童謡歌曲等の歌唱法を修得する。 ・童謡唱歌や歌唱を伴ううた遊びを通して歌唱力を養い、歌唱教材についての知識・理解を深めることができる。 ・楽曲を豊かに表現することができる。				
<授業方法> ・履修者に必要な課題を中心に授業計画を立て、習熟度に合わせた曲目を選択し、個々の演奏技術向上を図る。				
<授業計画> ※取り扱い楽曲は個々の習熟度により異なる。 第1回 ガイダンス・レッスン編成 第2回 こどものうた（こいのぼり、かたつむり、しゃぼんだま） 第3回 こどものうた（どんぐりころころ、まつぼっくり） 第4回 こどものうた（めだかがっこう、とんぼのめがね） 第5回 こどものうた（あめふりくまのこ、もりのくまさん） 第6回 こどものうた（こぎつね、ぞうさん、やぎさんゆうびん） 第7回 こどものうた（いぬのおまわりさん、ありさんのおはなし） 第8回 こどものうた（おもちゃのチャチャチャ、やまのおんがくか） 第9回 こどものうた（ビビディバビディブー、ゆりかごのうた） 第10回 こどものうた（おばけなんてないさ、せんろはつづくよどこまでも） 第11回 こどものうた（クラリネットをこわしちゃった、おはながわらった） 第12回 こどものうた（おんまはみんな、ふしぎなポケット） 第13回 こどものうた（てのひらをたいように、とんでったバナナ） 第14回 こどものうた（ちいさいあきみつけた、おもいでアルバム） 第15回 実技試験・まとめ				
<授業時間外学修> 事前事後の練習を基本とする。				
<テキスト> 「保育実用書シリーズ こどものうた200」小林美実編 チャイルド社 「童謡曲集」、「マーチ曲集」 聖ヶ丘保育専門学校 等				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
<成績評価> 実技試験 80% 受講状況 20%				
<備考> 初回のガイダンスを良く理解の上、事前事後の学習を欠かさず授業に臨むこと。				

英語 A			加藤 磨理子	
必修科目	演習	1 単位	二年次	単独
教員養成課程の区分	外国語コミュニケーション			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語」			
担当教員の実務経験	私立幼稚園にて英語講師として勤務			
<授業概要> テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像資料などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。				
<授業の到達目標> 国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語する幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。				
<授業方法> グループワーク				
<授業計画> 第 1 回 イントロダクション 授業の進め方、自己紹介 第 2 回 Unit1 保育の英会話への第一歩 “The Alphabet Song、 第 3 回 Unit1 リスニングの基本、保育の英単語 “Finger Family、 第 4 回 Unit2 挨拶の決まり “Bingo、 第 5 回 Unit2 家庭調査票を読み取る “Mary Had a Little Lamb、 第 6 回 Unit3 時刻の表し方 “Good Morning、 第 7 回 Unit3 持ち物のお知らせと数 “Lazy Mary、 第 8 回 Unit4 地図と場所 “Sunday,Monday,Tuesday、 第 9 回 Unit4 道案内をしてみよう “Head,Shoulders,Knees and Clap!、 第 10 回 Unit5 子供の遊び “Happy Birthday to you、 第 11 回 Unit5 動作と遊びの英単語 “The Hokey-Pokey、 第 12 回 Unit6 登園、今日の天気は？／グループワーク 第 13 回 Unit6 降園、どんな一日だった？／グループワーク 第 14 回 Unit6 自分のことを表現しよう ～したことある？／グループワーク 第 15 回 グループ発表、試験とまとめ				
<授業時間外学修> 授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。 また授業期間に計 5 回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。				
<テキスト> 『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著 萌文書林）				
<教科書・参考資料> 『解きながら身につける日常会話の英単語』（くもん出版）				
<成績評価> 実技 6 0 %、筆記試験（単語テスト） 2 0 %、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする） 2 0 %				
<備考> 特になし				

英語 B			加藤 磨理子	
必修科目	演習	1 単位	二年次	単独
教員養成課程の区分	外国語コミュニケーション			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語」			
担当教員の実務経験	私立幼稚園での英語講師として勤務			
<授業概要> テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。授業の前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。				
<授業の到達目標> 国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語とする幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。				
<授業方法> グループワーク				
<授業計画> 第1回 イントロダクション 授業概要。前期授業とのつながり。 第2回 Unit7 保育者の一日 保育者の一日を振り返ろう “Twinkle, Twinkle, Little Star” 第3回 Unit7 保育者の一日 0歳、一歳児の保育 “London Bridge” 第4回 Unit8 昼食の始まり、声かけをしよう “1,2,3,4,5 Clap Clap” 第5回 Unit8 献立を覚えよう “The Wheels on the Bus” 第6回 Unit9 トイレと排泄 “Old MacDonald Had a Farm” 第7回 Unit9 連絡帳 “Row, Row, Row Your Boat” 第8回 Unit10 子ども同士の喧嘩 “Where Is Thumbkin?” 第9回 Unit10 ～してはいけません、～しましょう “Seven Steps” 第10回 Unit11 怪我と病気①保護者へ報告 “Pat-a-Cake, Pat-a-Cake” 第11回 Unit11 怪我と病気②けがや病気の英単語 “Are You Sleeping?” 第12回 Unit12 電話でのやりとり／グループワーク 第13回 Unit14 赤ちゃんへの声かけ／グループワーク 第14回 Unit15 卒園／グループワーク 第15回 グループ発表、試験とまとめ				
<授業時間外学修> 授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。 また授業期間に計5回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。				
<テキスト> 『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著 萌文書林）				
<教科書・参考資料> 『解きながら身につける 日常会話の英単語』（くもん出版）				
<成績評価> 実技60％、筆記試験（単語テスト）20％、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）20％				
<備考> 特になし				

環境			岸 久美子	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」		
保育士養成課程の区分		保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」		
担当教員の実務経験		—		
<授業概要> 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の環境領域について理解する。また、幼児教育現場の環境や活動について学ぶ。 グループディスカッションや発表を通して、子どもの発達や状況に合わせた環境に関する留意及び配慮の方法について学ぶ。そして、教育実習及び保育実習につなげる。				
<授業の到達目標> 幼児を取り巻く環境（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と、幼児の発達における環境の重要性について説明できる。 保育内容「環境」を基にした幼児教育の活動を使った指導案の作成ができるようにする。				
<授業方法> 講義、グループディスカッション&発表、製作				
<授業計画> 第1回 ガイダンス、保育環境と領域「環境」 第2回 「5領域」、保育内容「環境」における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 第3回 0歳児の発達と「環境」① 第4回 小テストⅠ、0歳児の発達と「環境」② 事例研究 第5回 1歳以上3歳未満児の発達と「環境」① 第6回 1歳以上3歳未満児の発達と「環境」② 事例研究 第7回 3歳以上児の発達と環境①、小学校との接続 第8回 3歳以上児の発達と環境② 事例研究 第9回 小テストⅡ、季節の折り紙② 第10回 自然環境と地域環境 第11回 指導計画と環境 第12回 幼保小連携 第13回 季節と環境① 事例研究 第14回 季節と環境② 事例研究 第15回 期末まとめ				
<授業時間外学修> 各回の最後に、翌週の授業についてお知らせします。教科書の該当ページを読んで、しっかり予習してから授業に出席してください。				
<テキスト> 事例と演習でわかる保育内容「環境」 駒井美智子、横山文樹：編著 中央法規				
<教科書・参考資料> 平成29年告示「幼稚園教育要領」 文部科学省 平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府 平成29年告示「保育所保育指針」 厚生労働省 以上のほか、必要に応じて随時、資料を配布します。				
<成績評価> 期末試験 50% 小テストⅠⅡ 25% 発表、提出物（レポート、製作）、授業の参加度 25%				
<備考> 特になし				

基礎音楽			野戸智美／高橋拓真	
選択必修科目	講義	2 単位	1 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「基礎音楽」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 保育者として必要な演奏の技能や基本的な音楽の仕組み(楽典)を習得することで、豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力の向上を目指す。				
<授業の到達目標> ・音楽表現の基礎を習得し、音楽の規則や仕組み(楽典)を理解している。 ・音楽を表現することを通して、多様な表現を受け止め共感する能力を養うことができる。 ・豊かな音楽性を育み、幼児の表現活動を展開させる技術を習得することができる。				
<授業方法> 楽典（音楽の基礎）・手あそび・歌唱・リズム課題などを用いて、音楽活動や演奏に必要な知識、技能についての基礎を学ぶ。				
<授業計画> 第1回：ガイダンス 第2回：楽典（音楽と音、楽譜のしくみ、演奏記号）、子どもの歌、手遊び 第3回：楽典（音名、演奏記号）、小テスト、手遊び 第4回：楽典（小節、演奏記号）、小テスト、手遊び 第5回：楽典（音符と休符、演奏記号）、小テスト、手遊び 第6回：楽典（拍子とリズム、演奏記号）、小テスト 第7回：楽典（拍子とリズム、演奏記号）、小テスト 第8回：楽典（音程、演奏記号）、小テスト 第9回：楽典（音程、演奏記号）、小テスト 第10回：楽典（音階と調、演奏記号）、小テスト 第11回：楽典（音階と調、演奏記号）、小テスト 第12回：楽典（和音とコード、演奏記号）、小テスト 第13回：楽典（和音とコード） 第14回：まとめ（筆記試験対策） 第15回：学期末試験・振り返り授業				
<授業時間外学修> 事後学修としてノート又は資料を整理し理解を深めること。				
<テキスト> 「子どものための音楽表現技術－感性と実践力豊かな保育者へー」 今泉明美、他編 萌文書林 「新・たのしい子どものうたあそび-現場で活かせる保育実践- 第2版」 木村鈴代編 同文書院				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
<成績評価> 学期末試験 80% 小テスト 20% 60～69 点を「可」 ・70～79 点を「良」 ・80 点以上を「優」として単位認定する。				
<備考> 全ての授業への参加・所定の課題実施が、学修を完遂するための必須条件である。				

基礎造形			花村 泰江	
選択必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「基礎造形」			
担当教員の実務経験	—			
＜授業概要＞				
描く・作る等の造形行為を主とした表現活動の体験を通し、素材や用具の特性を理解すると共に、保育・教育の活動場面における援助の方法や留意点について知る。				
＜授業の到達目標＞				
1.保育活動の造形行為にある一般的な造形要素(素材・用具を含む)を扱うことができる。				
2.子どもの発達等の状況をふまえた、素材や用具の提供や援助の留意点を考えることができる。				
3.様々な素材との触れ合いではたらく身体の諸感覚への認識をもつことができる。				
＜授業方法＞				
実技演習を中心として、要所に講義を交える。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。				
＜授業計画＞				
第1回：【講義】ガイダンス…授業の趣旨、求める姿勢・評価について				
第2回：【演習】画用紙と用具の扱いについて…画用紙パペット作り①画用紙の質的变化を感じる				
第3回：【演習】画用紙と用具の扱いについて…画用紙パペット作り②用具と描画材の工夫				
第4回：【演習】画用紙と用具の扱いについて…パペット作品鑑賞会・講評				
第5回：【演習】描画材と支持体の特性理解…クレヨン、クレパス（色の基本要素について）				
第6回：【演習】描画材と支持体の特性理解…色鉛筆、マーカーペン（線描による表現）				
第7回：【演習】描画材と支持体の特性理解…水性絵の具の技法と表現（描画材で作品制作）				
第8回：【演習】描画材と支持体の特性理解…水性絵の具で遊ぶ（スタンプング等）				
第9回：【演習】雑材の活用…身近な素材（段ボール、紐、ボタン、シール等）から絵柄をイメージする。				
第10回：【演習】雑材の活用…身近な素材（段ボール、紐、ボタン、シール等）を厚紙にコラージュする。				
第11回：【演習】雑材の活用…コラージュをさらに進める。コラージュ作品鑑賞会・講評。				
第12回：【演習】立体素材による表現…粘土1触覚の再発見と素材の呼応性				
第13回：【演習】立体素材による表現…粘土2作品の仕上げ				
第14回：【講義】立体素材による表現…作品鑑賞会・講評／制作振り返り				
第15回：【講義】まとめ				
＜授業時間外学修＞				
事後学修として、毎時の振り返り記述を実施・提出すること。また、各自記録する授業ノートおよび配布資料を照応・整理する機会を設けること。事前学修として、資料の参照を提示する場合がある。				
＜テキスト＞				
特になし				
＜参考書・参考資料＞				
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)				
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)				
＜成績評価＞				
【評価配点】				
1. 授業態度を含めた取り組み(10%) 2. 成果物・記録(60%) 3. 最終試験・レポート(30%)				
＜備考＞				
全ての講義、演習への参加と所定の課題提出が、科目修得のための必要条件です。 各課題を行うにあたり、教員が示す活動に適した身支度と準備を整えること				

教育の方法と技術			小倉 賢人																																														
必修科目	演習	2 単位	2 年次	単独																																													
教員養成課程の区分	・ 道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 ・ 「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」 ・ 保育の内容・方法に関する科目																																																
保育士養成課程の区分	—																																																
担当教員の実務経験	私立幼稚園にて副園長として勤務																																																
＜授業概要＞ これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。																																																	
＜授業の到達目標＞ ・ 子どもの発達特性を踏まえた、教育の方法の基礎概念を理解する。 ・ 保育を行う上での基礎的な指導（表現）技術を理解し身に付ける。 ・ 情報機器の効果的な活用及び、教材の作成に関する基礎的な能力を身に付ける。																																																	
＜授業方法＞ テキストの知見をベースにしながら、実務経験を活かした実践記録を紹介し講義を進める。適宜グループワークを取り入れて各自が教育者としての学びを深められるよう工夫する。授業の最後に振り返りシートの記入時間を確保する。																																																	
＜授業計画＞ <table><tr><td>第 1 回</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の内容と進め方について</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>幼児期のふさわしい教育の方法</td><td>保育という方法</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>幼児期のふさわしい教育の方法</td><td>環境を通しての教育</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>幼児期のふさわしい教育の方法</td><td>遊びを通しての指導</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>幼児の主体的な生活を基盤とする保育</td><td>幼児の主体性の育成と「見えない保育」</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>幼児の主体的な生活を基盤とする保育</td><td>子どもの主体性と保育者の意図</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>幼児の主体的な生活を基盤とする保育</td><td>保育者のさまざまな役割</td></tr><tr><td>第 8 回</td><td>遊びのなかの学びをはぐくむ保育</td><td>遊びのなかの学びを規定するもの</td></tr><tr><td>第 9 回</td><td>遊びのなかの学びをはぐくむ保育</td><td>感じる、表現する遊び・気づく、試す、考える遊び</td></tr><tr><td>第 10 回</td><td>遊びのなかの学びをはぐくむ保育</td><td>友だちと関わってする遊び・共通の目的を見いだし協同する遊び</td></tr><tr><td>第 11 回</td><td>方法としてのさまざまな保育形態</td><td>保育形態のタイプ</td></tr><tr><td>第 12 回</td><td colspan="2">保育における評価・保育と ICT の活用</td></tr><tr><td>第 13 回</td><td>幼児期の教育と小学校教育の連関</td><td>小学校との接続、連携・遊びと、生活科、総合的な学習</td></tr><tr><td>第 14 回</td><td>幼児期の教育と小学校教育の連関</td><td>教科の学びの萌芽に満ちた遊び・円滑な接続のための幼小連携</td></tr><tr><td>第 15 回</td><td colspan="2">確認テスト</td></tr></table>					第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方について	第 2 回	幼児期のふさわしい教育の方法	保育という方法	第 3 回	幼児期のふさわしい教育の方法	環境を通しての教育	第 4 回	幼児期のふさわしい教育の方法	遊びを通しての指導	第 5 回	幼児の主体的な生活を基盤とする保育	幼児の主体性の育成と「見えない保育」	第 6 回	幼児の主体的な生活を基盤とする保育	子どもの主体性と保育者の意図	第 7 回	幼児の主体的な生活を基盤とする保育	保育者のさまざまな役割	第 8 回	遊びのなかの学びをはぐくむ保育	遊びのなかの学びを規定するもの	第 9 回	遊びのなかの学びをはぐくむ保育	感じる、表現する遊び・気づく、試す、考える遊び	第 10 回	遊びのなかの学びをはぐくむ保育	友だちと関わってする遊び・共通の目的を見いだし協同する遊び	第 11 回	方法としてのさまざまな保育形態	保育形態のタイプ	第 12 回	保育における評価・保育と ICT の活用		第 13 回	幼児期の教育と小学校教育の連関	小学校との接続、連携・遊びと、生活科、総合的な学習	第 14 回	幼児期の教育と小学校教育の連関	教科の学びの萌芽に満ちた遊び・円滑な接続のための幼小連携	第 15 回	確認テスト	
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方について																																															
第 2 回	幼児期のふさわしい教育の方法	保育という方法																																															
第 3 回	幼児期のふさわしい教育の方法	環境を通しての教育																																															
第 4 回	幼児期のふさわしい教育の方法	遊びを通しての指導																																															
第 5 回	幼児の主体的な生活を基盤とする保育	幼児の主体性の育成と「見えない保育」																																															
第 6 回	幼児の主体的な生活を基盤とする保育	子どもの主体性と保育者の意図																																															
第 7 回	幼児の主体的な生活を基盤とする保育	保育者のさまざまな役割																																															
第 8 回	遊びのなかの学びをはぐくむ保育	遊びのなかの学びを規定するもの																																															
第 9 回	遊びのなかの学びをはぐくむ保育	感じる、表現する遊び・気づく、試す、考える遊び																																															
第 10 回	遊びのなかの学びをはぐくむ保育	友だちと関わってする遊び・共通の目的を見いだし協同する遊び																																															
第 11 回	方法としてのさまざまな保育形態	保育形態のタイプ																																															
第 12 回	保育における評価・保育と ICT の活用																																																
第 13 回	幼児期の教育と小学校教育の連関	小学校との接続、連携・遊びと、生活科、総合的な学習																																															
第 14 回	幼児期の教育と小学校教育の連関	教科の学びの萌芽に満ちた遊び・円滑な接続のための幼小連携																																															
第 15 回	確認テスト																																																
＜授業時間外学修＞ テキストの指定されたところを読む。																																																	
＜テキスト＞ 「幼児教育の方法」小田豊、青井倫子著（北大路書房）																																																	
＜参考書・参考資料＞ ・ 「平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」（株式会社チャイルド本社） ・ 講義の中で適宜紹介																																																	
＜成績評価＞ 授業内容を正しく理解し、それを踏まえて自身の考えや論理的に道筋を立てて記述できているか。 授業内振り返りシート（授業への理解度・参加姿勢）50%；確認試験 50%																																																	
＜備考＞ 特になし																																																	

教育学			田中 卓也	
必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語、体育以外の科目」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 教育学では、教育の意義やその目的をしっかりと理解したうえで、教育の子ども家庭福祉との関連性を結びつけることができるようにする。諸外国及び日本の教育思想と歴史的変遷を理解するとともに、現在の保育・教育を考える基盤・土台づくりを行う。さらに教育法規や教育行政の基礎を理解し、教育制度等の課題についてしっかりと考えられるようにする。教育実践と共に生涯学習社会における教育課題を理解し、保育・教育を考えるための視野を広く持てるようにする。				
<授業の到達目標> まずは教育の定義やそれに関連するいろいろな概念について理解し、説明することができる。つぎに教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な考えについて説明できる。さらに生涯学習社会における教育の現状と課題について理解し、保育者としての生涯学習の意義における自身の見解を持つことができる。				
<授業方法> 通常の講義のほか、討議（ディスカッション・ディベート）、グループワーク、プレゼンテーション、調べ学習などを取り入れたものとする。				
<授業計画> 第1回 はじめに オリエンテーション 「教育」とは何かについて考える（グループ討議・ゲーム形式レクリエーション） 第2回 教育と保育の意味と可能性についてさぐる（グループ討議・ゲーム形式レクリエーション） 第3回 西洋の教育の歴史（古代・中世）&古代・中世の人物学習（グループ新聞作成&プレゼンテーション） 第4回 西洋の教育の歴史（近世）&近世の人物学習（グループ新聞作成&プレゼンテーション） 第5回 西洋の教育の歴史（近代）&近代の人物学習（クイズを作問し、クイズ形式での学習） 第6回 西洋の教育の歴史（現代）&現代の人物学習（クイズを作問し、クイズ形式での学習） 第7回 日本の教育の歴史（古代・中世）&古代・中世の人物学習（グループ新聞作成&プレゼンテーション） 第8回 日本の教育の歴史（近世）&近世の人物学習（グループ新聞作成&プレゼンテーション） 第9回 日本の教育の歴史（近代）&近代の人物学習（クイズを作問し、クイズ形式での学習） 第10回 日本の教育の歴史（現代）&現代の人物学習（クイズを作問し、クイズ形式での学習） 第11回 教育課程（カリキュラム）とはどのようなものかについて考える（私の「理想のカリキュラム」発表） 第12回 「生徒指導」「生活指導」とはどのようなものか？教育実践と結び付けて考える（幼児の「いじめ」・「不登園」について考える） 第13回 教育制度と学校経営・学級経営との関わりについて考える（「私の園でのクラス経営」発表） 第14回 キャリア教育とはどのようなものかについて考える（「将来のキャリア予想図」を作成） 第15回 保育者・教師の専門性とは何かについて考える（「将来の私の保育者像」発表）				
<授業時間外学修> 事前学習：事前に該当するテキストの内容をしっかりと読み込みを行ったうえで、予習して授業に臨む。 事後学習：講義終了後に課題を提出し、授業で扱った事項をテキスト等で補足しまとめる。				
<テキスト> 佐藤環監修、田中卓也ほか編著『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育の原理』（萌文書林、2022 年）				
<参考書・参考資料> 田中卓也監修『保育者・教師になるための道しるべ』学文社、2017 年。 田中正浩編『教育の質を高める教育原理』大学図書出版、2017 年。 田中正浩編『保育の質を高める保育原理』大学図書出版、2018 年。 戸江茂博監修、田中卓也ほか編『幼児教育方法論』学文社、2019 年。 佐藤環監修、田中卓也編『日本の教育史を学ぶ』東信堂、2019 年。 『幼稚園教育要領』（平成 30 年 3 月告示 文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 30 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』（平成 30 年 3 月告示 厚生労働省）				
<成績評価> グループワーク（10％）課題（小レポート）の提出（20％）、コメントシート記入および提出（10％）、定期試験（60％）において総合的に評価をします。 試験の成績だけで成績評価をすることはありません。				
<備考> 毎回の講義への出席が前提になります。				

教育原理			亀田 良克	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「教育の理念並びに教育にかんする歴史及び思想」			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「教育原理」			
担当教員の実務経験	－			
<授業概要> 教育に関する歴史と思想をたどりながら教育や子どもについての理解を深めていく。また、現在の教育が抱えるさまざまな問題や課題について考察していく。				
<授業の到達目標> 「教育とは何か」について探求を深めるために教育の概念、理念、歴史、思想を知ることをねらいとし、講義で学んだことを基礎に、教育や保育の現場で自らの教育観を構築できる力と姿勢を身につけることを目標とする。				
<授業方法> 講義を中心に進めていきますが、個人ワークやグループディスカッション、前後左右の受講者同志による討議等も実施します。また、適宜視聴覚教材も使用します。幅広い視点や知識の獲得を目指して積極的に参加しましょう。				
<授業計画> 第 1 回 イントロダクション（「教育原理」で何を学ぶのか、授業の流れと評価、教育とは何か） 第 2 回 乳幼児期の教育の特性 第 3 回 教育の目的とは 第 4 回 教育と子ども家庭福祉 第 5 回 諸外国における公教育の発展 第 6 回 近代の教育思想①（教育思想を学ぶ意義、コメニウス） 第 7 回 近代の教育思想②（ロック、ルソー、カント） 第 8 回 近代の教育思想③（ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト） 第 9 回 教育制度の基本/諸外国の近代教育制度 第 10 回 近代学校の成立と戦前の教育（日本） 第 11 回 倉橋惣三と戦後日本の教育 第 12 回 教育評価と学力、資質・能力 第 13 回 近年の教育課題（学びの場の多様化について考える） 第 14 回 近年の教育課題（国際化・情報化とこれからの教育・保育のあり方について考える） 第 15 回 講義の振り返りと試験				
<授業時間外学修> 各回の授業終了時に次回の学修内容を伝達するので、テキストの該当箇所を授業前に読んでから授業に臨むこと。また、授業内で学んだ重要なキーワードを中心に配布資料に目を通し、講義内容について各自で復習をしておくこと。				
<テキスト> 公益財団法人 児童育成協会監修、矢藤誠慈郎・北野幸子編集『教育原理 新・基本保育シリーズ②』中央法規出版				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 授業内試験 80 点および振り返りシート 20 点の計 100 点満点のうち 60 点以上で単位を認定する。				
<備考> 特になし				

教育行政			太田 淳平	
必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 日本の教育行政の仕組みや教育に関する法律について、その基本的な内容やその歴史について理解する。さらに、保育の現場と教育行政、および地域との連携のあり方について学ぶ。				
<授業の到達目標> 教育関係法規や教育制度・保育制度について理解する。その上で、法律や制度によって保障されている子どもの権利や安全、教育の機会均等などについて理解する。さらに制度の中で、保育者としてどのような役割が期待されているのか理解を深め、自分の言葉で説明できるようにする。				
<授業方法> 講義中心で行うが、一部ディスカッションや意見の発表などの活動も求める場合がある。				
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 教員行政 第 3 回 教育制度・保育制度の歴史 第 4 回 子どもの権利条約・子どもをめぐる問題 第 5 回 教育制度・教育法規 第 6 回 教育制度・保育制度～教育の機会均等とは～ 第 7 回 就学前および初等中等教育行政 第 8 回 地方の教育をめぐる政治と行政 第 9 回 教育委員会と学校教育～管理と裁量～ 第 10 回 教育・保育の財政～お金の話～ 第 11 回 地域と学校 第 12 回 教育・保育の安全 第 13 回 教育課程行政①～教育の内容をだれが決めるのか～ 第 14 回 教育課程行政②～幼稚園教育要領を「使いこなしてみる」～ 第 15 回 まとめ&期末試験				
<授業時間外学修> テキスト及び配布資料をもとに予習することを薦める。				
<テキスト> 青木栄一編『アクティベート教育学 02 教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房、 2019 年。				
<参考書・参考資料> 特になし。				
<成績評価> ① 振り返りシート（20％） ② 小レポート・小テスト（20％） ③ 期末試験（60％）				
<備考> 特になし				

教育実習			岸本圭子・太田淳平・大谷康太	
必修科目	実習	4 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	教育実践に関する科目「教育実習」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	岸本：私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務			
<授業概要> ・幼稚園教諭免許取得のための実習として、幼稚園や認定子ども園において観察・参加実習を行う。 ・幼稚園での実習を通じて、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の機能および教諭の職務について実践的に学ぶ。 ・教育現場での実践を通じて、教員としての資質能力、実践的指導力を体得する責任実習を行う。				
<授業の到達目標> 1、幼稚園・認定子ども園の役割や機能を具体的に理解する。 2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5、幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
<授業方法> 幼稚園・認定こども園で、9月～原則一日8時間20日間実習を実施する。				
<授業計画> 1. 幼稚園・認定子ども園の役割と機能 (1) 幼稚園・認定子ども園の生活と一日の流れ (2) 幼稚園・認定子ども園の役割と機能 2. 園児の理解 (1) 園児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 教育内容・生活環境 (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 園児の心身状態に応じた対応 (3) 園児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 (1) 指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての教諭の役割と倫理 (1) 教諭の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 教諭の役割と職業倫理				
<授業時間外学修> 理論と実践の具体的な相互関係を学び、保育者としてのあり方を学ぶ。また、日々の実習を振り返りながら、実習の内容を日誌に記録し、それをもとに次の日の準備や指導案作成・準備をする。				
<テキスト> 小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社 「実習の手引き」 聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部編				
<教科書・参考資料> 「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）」内閣府・文部科学省・厚生労働省				
<成績評価> 実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%				
<備考> 教育実習指導の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数 の3分の2以上に出席すること、および教育実習の単位修得が必要となる。				

教育実習事前事後指導（幼稚園）			岸本圭子・太田淳平・大谷康太	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	教育実践に関する科目「教育実習」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	岸本：私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務			
<授業概要> 事前指導では、幼稚園教育の基本や実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方 を学び、実習を円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。 事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし振り返り、自己評価を行い、今後の課題を明確にする。				
<授業の到達目標> 1 実習の基本的理解 2 幼稚園教育の理解と保育の方法 3 幼稚園教育の実践的課題を学ぶ 4 保育者に望まれる資質と実習生の心得				
<授業方法> テキストやプリントに加え、視覚教材、事例やグループワークなどを通して、体験的実践的に知識や技術を身につける。				
<授業計画> 第1回：オリエンテーション（教育実習に向けて目的・意識・授業日程の確認） 第2回：幼稚園とは（VTRを見ながら幼稚園の一日の流れを把握しながらレポートに書く） 第3回：子どもの発達について 第4回：実習園について（ホームページなどで調べ、園の概要への書き方について） 身上書の書き方（実習をさせていただくという気持ちで記入する） 第5回：実習課題について（実習で何を学びたいのか考え記入する） 本日にねらいについて（「本日のねらい」の立て方について） 第6回：実習日誌の書き方①（「一日の流れ」…子どもの活動・保育者の援助の流れについて） 第7回：実習日誌の書き方②（「一日の流れ」…気づきやエピソード記録・考察の考え方） 第8回：オリエンテーションを受けるに当たり（実習生としての心構え）、誓約書について 第9回：指導案の作成①（部分実習と責任実習の違い、内容の考え方） 第10回：指導案の作成②（ねらいや環境構成の考え方） 第11回：指導案の作成③（実際に日案の立案をする） 第12回：実習直前の指導（実習生としての心構えの確認） 第13回：事後指導①（実習前半の振り返り） 第14回：事後指導②（実習全体の振り返り） 第15回：事後指導③（評価伝達と課題確認）				
<授業時間外学修> 教材研究や提出書類の準備などを行う。				
<テキスト> 小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社 「実習の手引き」 聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部編				
<教科書・参考資料> 「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）」内閣府・文部科学省・厚生労働省				
<成績評価> 提出物80%・実習前後の報告20%				
<備考> 教育実習指導の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および教育実習の単位修得が必要となる。				

教育心理学			黒石 憲洋	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	－			
<授業概要> 教育を考える上で必要となる心理学の基礎概念・用語について理解するとともに、子どもの発達や成長、学習やその個人差を見極めて支えていく上で必要となる考え方として、心理学的な理論や評価や介入の仕方について学習する。				
<授業の到達目標> 1. 学習についての歴史的な考え方について理解する。 2. 学習を支える動機づけに関する理論を理解し、子どもの動機づけを高める働きかけや介入の仕方を検討する視点を習得する。 3. 行動における個人差としてのパーソナリティに関する考え方を理解する。 4. 教育における評価のあり方について理解し、その影響について検討する視点を習得する。				
<授業方法> 講義、アクティビティ、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。				
<授業計画> 第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、教育心理学で学ぶこと 第2回：教育とは：教育と保育、教育と学習、遺伝と環境 第3回：学習理論①：行動主義（古典的条件づけとオペラント条件づけ） 第4回：学習理論②：認知主義 第5回：学習理論③：状況主義 第6回：動機づけ理論①：欲求理論、達成動機理論、原因帰属理論、目標理論 第7回：動機づけ理論②：学習性無力感理論、自己効力理論 第8回：動機づけ理論③：認知的評価理論、自己決定理論 第9回：パーソナリティ理論①：類型論的理解 第10回：パーソナリティ理論②：特性論的理解 第11回：パーソナリティ理論③：愛着型とその発達 第12回：教育における評価①：絶対評価、形成的評価、ルーブリックとポートフォリオ 第13回：教育における評価②：教育における認知的バイアス 第14回：新しい学習の形態：協同学習、アクティブラーニング 第15回：試験および全体のまとめ				
<授業時間外学修> 事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。				
<テキスト> テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。				
<参考資料> 市川伸一（1995）. 学習と教育の心理学 岩波書店 レイブ・ウェンガー（1993）. 状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加 産業図書 スティベック（1990）. やる気のない子どもをどうすればよいか 二瓶社				
<成績評価> 授業内で実施する期末試験において、合格点（100 点満点中、60 点以上）を満たせば、単位を認定する。				
<備考> 特になし				

教育相談論 A			殿塚 貴史	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	東京都世田谷区の中学校にて心理相談員・メンタルクリニックでの心理アセスメントとして勤務			
<授業概要> 保育現場の日常を客観的に見て、知るところから始まり、徐々に現代の子どもがかかえる悩みごと、困りごとに対してどのように把握し、介入していけるか、具体的にはカウンセリングの技術について講義と演習で学んでいく。				
<授業の到達目標> 学校における教育相談の意義と理論を理解する。・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 ・受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。				
<授業方法> 講義を中心に行うが適宜ディスカッションやグループワーク、体験学習等も行う予定。 板書した内容は必ずノートにとること。その内容がそのまま試験に出ます。				
<授業計画> 第 1 回：オリエンテーション、教育相談概論 とは何か 子どもとはどんな存在か 第 2 回：心理学の分類と学校心理学 第 3 回： 精神医学と臨床心理学 第 4 回：臨床心理学の基礎理論 1 精神力動理論 第 5 回：臨床心理学の基礎理論 2 認知行動理論 第 6 回：臨床心理学の基礎理論 3 人間性心理学 第 7 回：臨床心理学の基礎理論 4 コミュニティアプローチ・家族療法 第 8 回：アセスメントとは何か 第 9 回：アセスメントの方法 1・行動観察法 第 1 0 回：アセスメントの方法 2・面接法 第 1 1 回：アセスメントの方法 3・心理検査法 質問紙・作業検査・投影法 第 1 2 回：不適応・精神疾患・発達障害の違い 第 1 3 回：心理社会的ストレスとは何か 第 1 4 回：パーソナリティと病前性格 第 1 5 回：期末試験とまとめ				
<授業時間外学修> 授業時間内で学習した心理アセスメントの方法(面接法や検査法など)に関して家族や友人に対して実践してみることで対象者の理解の仕方を習得できるようにしていく。				
<テキスト> 教育相談 第 2 版 (Next 教科書シリーズ) 弘文堂 津川律子 山口義枝 北村世都 編				
<参考書・参考資料> 特になし				
<成績評価> 授業中の態度や積極性 40% 期末試験 60%				
<備考> 特になし				

教育相談論 B			殿塚 貴史	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」		
保育士養成課程の区分				
担当教員の実務経験		東京都世田谷区の中学校にて心理相談員・メンタルクリニックでの心理アセスメントとして勤務		
<授業概要> 子どもの特徴をどう捉えてみると良いのかを考え、次いで、子どもたちを取り囲む背景、広義の教育相談としてどのように子ども たちを「相談支援」という形で守って見届けていけるかを養う理解力を深めていく。				
<授業の到達目標> 授業の到達目標及びテーマ ・いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談 の進め方を理解している。 ・教育相談の基礎となるコミュニティアプローチの内容と方法を理解している。 ・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。				
<授業方法> 講義を中心に行うが適宜ディスカッションやグループワーク、体験学習等も行う予定。 板書した内容は必ずノートにとること。その内容がそのまま試験に出ます。				
<授業計画> 第 1 回：オリエンテーション、学校心理学とコミュニティアプローチ 第 2 回：ロジャーズの 3 つの態度要件とカウンセリングマインド 第 3 回：子ども理解 1 子どもの自己表現能力 自己開示と自己呈示 第 4 回：子ども理解 2 乳幼児期の発達の特徴 第 5 回：子どもと環境 1 虐待と関連機関 第 6 回：子どもと環境 2 外傷体験・喪失体験 第 7 回：子どもと環境 3 保護者が育児の困る時 第 8 回：子どもと環境 4 保育者自身のメンタルケア 第 9 回：園で教育相談を行なうときに気をつけること 第 10 回：園から学校への橋渡しで気をつけること 第 11 回：通常の幼児教育の業務と教育相談との違い 第 12 回：コミュニティアプローチの方法 1 第 13 回：コミュニティアプローチの方法 2 第 14 回：コミュニティアプローチの方法 3 第 15 回 期末試験とまとめ				
<授業時間外学修> 授業時間内で学習した心理アセスメントの方法(面接法や検査法など)に関して家族や友人に対して実践することで対象者の理解の仕方を習得できるようにしていく。				
<テキスト> 教育相談 第 2 版 (Next 教科書シリーズ) 弘文堂 津川律子 山口義枝 北村世都 編				
<参考書・参考資料> 特になし				
<成績評価> 授業中の態度や積極性 40% 期末試験 60%				
<備考> 特になし				

教職概論			太田 淳平	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「保育者論」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 本授業では、教職および保育者の社会における位置付けや、役割、資質能力、協働などについて学ぶ。社会の変化とともに、教職への期待や眼差しも大きく変化することを理解してもらう。				
<授業の到達目標> 教職・保育者の役割や意義、求められている資質能力について理解を深める。さらに保育者の専門性とはどのようなものかを理解する。それにとどまらず、自分自身がどのような教育者・保育者を理想とするのか考え、言語化できるようになる。				
<授業方法> 講義中心で行うが、一部ディスカッションや発表などの活動も行う。				
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 教育者・保育者とは？ 第3回 保育・保育者に関わる制度 第4回 教職・保育者の歴史的変遷 第5回 幼稚園教諭・保育士の1日 第6回 日本の教職の特徴～国際的な比較から～ 第7回 子どもの内面や発達を理解する／子どもの遊びを援助する 第8回 個と集団を生かす／省察する力 第9回 家庭や地域との連携・支援 第10回 教材などを通して学びを深める保育者 第11回 多様な子どもの理解と支援 第12回 学び続ける教師 第13回 教師・保育者の専門性～同僚性・レジリエンス・協働～ 第14回 教師・保育者の専門性～教師・保育者としてどう生きていくのか～ 第15回 まとめ&期末試験				
<授業時間外学修> テキスト及び配布資料をもとに予習することを薦める。				
<テキスト> 大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸編『アクティベート保育学 02 保育者論』ミネルヴァ書房、2019年。				
<参考書・参考資料> ①佐久間亜紀、佐伯胖編著『アクティベート教育学 2 現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。 ②吉田武男編著『MINERVA はじめて学ぶ教職 2 教職論』ミネルヴァ書房、2019年。				
<成績評価> ① 振り返りシート（20%） ② 小レポート・小テスト（20%） ③ 期末試験（60%）				
<備考> テキスト以外に、〈教科書・参考資料〉①『アクティベート教育学 2 現代の教師論』の内容も踏まえた授業展開を予定しているため、参照することを勧める。				

健康			蛸原 正貴	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	公立小学校にて小学校教諭として勤務			
<授業概要> この科目では、保育所保育指針に示される「健康」領域に関して理解を深めるとともに、基本的生活習慣や運動遊び、疾病の予防や安全管理などの子どもが健康に育つために必要な知識について解説を行う。特に、運動不足の解消やアレルギー対応などの現代的課題については、最新のデータを基に情報機器等を用いながら授業を進める。				
<授業の到達目標> 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育保育要領について理解し、健康の定義や健康課題について説明できる。 2. 乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解している。 3. 乳幼児期の安全な生活と怪我や病気の予防について説明できる。 4. 危険に関しリスクとハザードの違いを含む安全管理を理解している。 5. 乳幼児期の日常生活における身体活動の在り方を説明できる。				
<授業方法> 討議(ディスカッション・ディベート)、グループワーク、調べ学習				
<授業計画> 第1回 領域「健康」についての理解（「健康」の意義と現代的課題の把握） 健康の意義について理解し、現代の健康問題について把握する。 予習：「健康」の意義について調べておく（30分）。 復習：健康の意義、現代の課題についてまとめる（30分）。 第2回 領域「健康」のねらい及び内容 発達段階別の領域「健康」のねらい、内容について学ぶ。 予習：領域「健康」とはどのような領域なのか調べておく（30分）。 復習：発達段階別の「健康」のねらい、内容についてまとめる（30分）。 第3回 乳幼児期の身体的発達 乳幼児期の身体的発達の特徴についてデータを基に理解する。 予習：乳幼児期の発達曲線について調べておく（30分）。 復習：乳幼児期の発達の特徴について、データの読み取りを含めてまとめる（30分）。 第4回 乳幼児期の基本的生活習慣 基本的生活習慣の発達の特徴について学ぶ。 予習：基本的生活習慣とは何なのか調べておく。（30分）。 復習：基本的生活習慣の発達の特徴についてまとめる（30分）。 第5回 乳幼児期の「食を営む力」 乳幼児期の食育の意義について学ぶ。 予習：幼児期の食育とは何か調べておく（30分）。 復習：食育について理解し、実践的取り組みについてまとめる（30分）。 第6回 乳幼児期における運動の特徴及び周囲との関わり 具体的な乳幼児期の遊びについて理解し、周囲との関わりを含めた遊びの内容について学ぶ。 予習：乳幼児期における運動の特徴について調べておく（30分）。 復習：授業内容を振り返り、乳幼児期の具体的な遊び例についてまとめる（30分）。 第7回 第1回から第6回までの内容の確認（中間レポート） 第1回から第6回までの到達目標に対する到達度を確認する中間レポート作成 予習：第1回から第6回までの内容を振り返っておく（30分）。 復習：授業で振り返りが不十分であった部分を補足する（30分）。				

第8回 遊びとしての運動の重要性

運動遊びの有効性、重要性について学ぶ。

予習：運動遊びの有効性について調べておく（30分）。

復習：運動遊びの重要性についてまとめる（30分）。

第9回 乳幼児の心の安定

乳幼児期の精神的発達について理解し、その関わり方について学ぶ。

予習：乳幼児期の精神的発達について調べる（30分）。

復習：授業内容を振り返りながら、具体的な関わり方について学ぶ（30分）。

第10回 慢性疾患を含む疾病の予防及び対応

乳幼児期の疾病やケガの特徴を理解し、対応について学ぶ。

予習：乳幼児期に発病しやすい疾病について調べておく（30分）。

復習：乳幼児期注意すべき疾病とその対応についてまとめる（30分）。

第11回 保育環境と安全

安全な保育環境について、具体例を見ながら学ぶ。

予習：安全な保育環境はどのようなものなのか調べ、考えておく（30分）。

復習：安全な保育環境を構築するための方法、考え方についてまとめる（30分）。

第12回 領域「健康」の変遷及び小学校との連携

領域「健康」の変遷から小学校の連携について時系列に学ぶ。

予習：領域「健康」がつけられた背景について調べておく（30分）。

復習：これからの保育者が求められることについて考え、まとめる（30分）。

第13回 運動遊びを含む身体活動の在り方について

現代における身体活動の在り方について、日常生活を例に学ぶ。

予習：現在の自分自身の運動習慣について振り返っておく（30分）。

復習：これから必要となっている身体活動についてまとめる（30分）。

第14回 健康を育む指導案について

これまでの授業内容を踏まえた指導案の作成過程について学ぶ。

予習：これまでの授業内容を振り返っておく（30分）。

復習：指導案作成において注意すべき点をまとめる（30分）。

第15回 まとめ（期末レポート）

第8回から第14回までの到達目標に対する到達度を確認する期末レポート作成。

予習：14回までに学んだことを振り返っておく（30分）。

復習：レポートにまとめた内容の活用方法について考える（30分）。

<授業時間外学修>

上記<授業計画欄>参照。

<テキスト>

特になし

<教科書・参考資料>

幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)

保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)

<成績評価>

到達目標に対する到達度を確認する中間レポート：50%

到達目標に対する最終到達度を確認する期末レポート：50%

<備考>

レポートの提出や連絡事項については、Googleclassroom を使用します。

第1回の授業でも説明をしますが、可能であれば、Googleclassroom のアプリをダウンロードしておいてください。(スマートフォンをお持ちでない方は初回の授業時にご相談ください。)

言葉			西山 国江	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	保育士・幼稚園教諭養成校にて教員として勤務			
<授業概要> 保育において育みたい幼児の資質・能力について学ぶとともに、領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深める。また、幼児の言葉の発達に即した言葉遊びや児童文化財を適宜活用する技術を体験的に学び、実践力を養う。				
<授業の到達目標> ・領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 ・幼児の発達にともなう児童文化財の意義を理解する。 ・言葉遊びや児童文化財を活用し、実践力を養う。				
<授業方法> ・視覚教材を使用する。 ・調べ学習を通して、「言葉」に関する知識を修得する。 ・グループワークや発表を通して、理解を深め、技術を修得する。				
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション/人間と言葉 第 2 回 乳幼児期の言葉の獲得 第 3 回 言葉の豊かさ 第 4 回 言葉遊び 第 5 回 児童文化財①[おはなし] 第 6 回 児童文化財②[紙芝居] 第 7 回 児童文化財③[絵本] 第 8 回 児童文化財④[絵本と子ども]/児童文化財の振り返り 第 9 回 領域「言葉」 第 10 回 子どもの発達と言葉 第 11 回 前言語期のコミュニケーションと保育 第 12 回 話し言葉の機能と発達 第 13 回 書き言葉の発達と保育 第 14 回 言葉に関する諸問題/言葉の振り返り 第 15 回 言葉を育む保育の構想・現代社会と言葉				
<授業時間外学修> 授業内容を確認し、理解の定着を図る。課題を行う。レポートを作成する。				
<テキスト> 保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」 馬見塚明久/小倉直子[編著] ミネルヴァ書房				
<参考書・参考資料> ・幼稚園教育要領（平成 3 0 年 3 月告示 文部科学省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 3 0 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） ・保育所保育指針（平成 30 年 3 月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 試験 3 0 % 課題 5 0 % レポート 2 0 %				
<備考> 特になし				

子どもの健康と安全			遠藤 由美子	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「子どもの健康と安全」			
担当教員の実務経験	小児科にて看護師として勤務。救急救命センターにて看護師として勤務。 相模原市保健予防課にて看護師として勤務。			
＜授業概要＞ 健康状態の観察、子どもの身体測定、生理機能の測定、精神・運動発達機能の評価と記録の方法等演習を通して理解する。また、災害時の対応や対策、緊急時の対応等の方法等子どもが成長する過程で保険対応として必要な対応の技術を習得する。				
＜授業の到達目標＞ 保育における保健的な視点からから、保育環境や援助について知識を深める。また、各種ガイドラインを用いた、安全対策を保育の視点で理解する。さらに、子どもの健康や安全の管理について組織的取り組みや保健活動の計画や評価方法について具体的に理解する。				
＜授業方法＞ 配布された資料に従い、演習を行いながら学習を進める。授業により、ICT を活用し質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。				
＜授業計画＞ 第 1 回 オリエンテーション 子どもの健康と保育環境 （課題あり） 第 2 回 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理（課題あり） 第 3 回 保育における衛生管理 （課題あり） 第 4 回 保育における事故防止と安全対策、危機管理 （課題あり） 第 5 回 保育における災害への備え （液体ミルクや使い捨て哺乳瓶）（課題あり） 第 6 回 体調不良及び障害発生時の応急処置と対応 （課題あり） 第 7 回 救急処置及び救急蘇生法 （AED の使用方法）（課題あり） 第 8 回 感染症の集団発生の予防と発生後の対応（ノロウイルスの対応・手袋のはめ方・外し方おむつの捨て方）（課題あり） 第 9 回 保育における保健的対応 （課題あり） 第10 回 3 歳児未満児への対応 （子どもの扱い方）（課題あり） 第 11 回 個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患・アレルギー性疾患）（課題あり） 第12 回 障害のある子どもへの対応 （歯磨きの仕方）（課題あり） 第 13 回 職員間の連携・協働と組織的取り組み（家庭・専門機関・地域の関係機関）（課題あり） 第14 回 保育における保健活動の計画及び評価（課題あり） 第 15 回 心豊かな子どもに育てるために				
＜授業時間外学修＞ 授業 1 ～ 1 5 において家庭学習（課題への取り組み：60 分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより提出）				
＜テキスト＞ 保育者養成シリーズ 子どもの健康と安全 林邦雄・谷田貝公昭監修 株式会社 一藝社				
＜参考書・参考資料＞ 保育所保育指針解説平成 2 9 年 3 月告示 厚生労働省				
＜成績評価＞ 学生に対する評価：①提出課題合計 9 6 点（課題 1 ～ 1 2 が各 8 点、ミニテスト含む）②成果物評価 4 点 （配点はルーブリックに示す。） * 課題は、授業毎課される（ただし、課題 1 ～ 1 2 及び課題成果物と授業回数数は一致しない）。 * 欠席に伴う授業資料配布は、希望者のみ職員室で行う。 * 欠席に伴う提出物は、指定の形式でのみ受け付け、更に課題評価点は通常とは異なる。 ①②を合計で 1 0 0 点。8 0 点以上「優」、7 0 ～ 7 9 点「良」、6 0 ～ 6 9 点「可」、5 9 点以下「不可」とする。				
＜備考＞ 特になし				

子どもの食と栄養 A			松本 辰子	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分		－		
保育士養成課程の区分		保育の対象の理解に関する科目「子どもの食と栄養」		
担当教員の実務経験		大学病院にて管理栄養士として勤務・公立小学校にて栄養教諭として勤務		
＜授業概要＞				
子どもの心身共に健康な体づくりのために、発育発達という特徴を踏まえて食に関する基礎的な知識を学び、自らも望ましい食生活を実践できるようにする。また、保育における食育の重要性を理解し、保護者や子どもに指導ができる専門性を養う。				
＜授業 A の到達目標＞				
・健康な生活を基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する				
・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する				
・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ				
・特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について学ぶ				
＜授業方法＞				
・A では講義も多いが、その都度グループワーク・討議・調べ学習等を取り入れて演習を行う。 ※1・6・8：グループワーク ※2・3・4：調べ学習 ※5・7：討議（ディスカッション）				
＜授業計画＞				
第 1 回 ○オリエンテーション（前期 A 後期 B の演習計画・授業の説明・評価方法・他） 				

子どもの食と栄養 B			松本 辰子	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの食と栄養」			
担当教員の実務経験	大学病院にて管理栄養士として勤務・公立小学校にて栄養教諭として勤務			
＜授業概要＞				
子どもの心身共に健康な体づくりのために、発育発達という特徴を踏まえて食に関する基礎的な知識を学び、自らも望ましい食生活を実践できるようにする。また、保育における食育の重要性を理解し、保護者や子どもに指導ができる専門性を養う。				
＜授業 B の到達目標＞				
・子どもの成長段階（ライフステージ）や身体状況に応じた栄養や食物の調理方法及び摂取方法について、実習を行いながら技術を習得する。				
・食育の基本と内容を理解し、計画を立てて食育だよりを作成し、講師及び学生同士の講評を受けることで保護者や子どもに効果的に伝える方法を幅広く習得する。				
＜授業方法＞				
・B では実務面での技術の習得を目指して調理実習・演習を中心に授業を行う。				
※1・6：調べ学習 ※2・3・4・5：体験学習 ※7・8：教材作成練習 ※9・10：プレゼンテーション				
＜授業計画＞				
第 1 回 ○オリエンテーション（後期の演習計画・評価方法）○胎児期（妊娠期）の栄養と食生活①				
第 2 回 ○胎児期（妊娠期）の栄養と食生活② ○妊娠期の栄養を考慮した献立の作成 ※1				
第 3 回 ○乳汁期・離乳期の栄養と食生活 ○食べる機能の発達（嚥下・咀嚼）				
第 4 回 ○調乳実習 ※2				
第 5 回 ○離乳食 調理実習 ※3				
第 6 回 ○幼児期の栄養・食支援（スプーン・フォーク・箸の持ち方・食事援助のコツ） ※4				
第 7 回 ○補食としてのおやつ 調理実習 ※5				
第 8 回 ○学童期・思春期の栄養と食生活 ○成人期・高齢期の栄養と食生活 生涯発達				
第 9 回 ○食育の基本と内容① ○食育における養護と教育の一体性				
第 10 回 ○食育の基本と内容② ○食育のための環境・食育計画 ○食育だより指導案作成 ※6				
第 11 回 ○食育だより作成 ※7				
第 12 回 ○食育だより完成 ※8				
第 13 回 ○食育だより発表・講評① ※9				
第 14 回 ○食育だより発表・講評② ※10				
第 15 回 ○筆記試験 ○まとめと振り返り				
＜授業時間外学修＞				
予習：あらかじめ教科書を読み、実習の手順等を確認しておく				
復習：実習を振り返りながら期日を守ってレポート等を作成する				
その他：保育実習・教育実習の機会を逃さず子どもの食に関する様子をよく観察する				
＜テキスト＞				
・イラスト「子どもの食と栄養」（東京教学社）				
＜参考書・参考資料＞				
・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）				
・楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針（厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長 雇児保発第 0329001 号平成 16 年 3 月 29 日）				
・「保育現場の食育計画（アレルギー対応）」（栄養セントラル学院）				
＜成績評価＞				
筆記試験 40% 授業における提出課題等 60%				
＜備考＞				
特になし				

子どもの保健			遠藤 由美子	
必修科目	講義	2 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの保健」			
担当教員の実務経験	小児科にて看護師として勤務。救急救命センターにて看護師として勤務。 相模原市保健予防課にて看護師として勤務。			
<授業概要> 保育における子どもの保健の位置づけを理解し、健康な子どもを中心に、成長とともに変化する身体と精神の発達を学ぶ。更に、子どもが罹りやすい病気の対応と予防、先天的疾患、感染症、事故の予測と予防、対応について学び、個々の子どもの健康状態や保健上の問題を判断し適切に対応できる基本的知識を得る。また、子供の保健に関する制度と現状・課題について考える。以上について学び、資格取得に必要な知識や技術の習得を目的とする。				
<授業の到達目標> 子どもの身体的・精神的発達の維持・増進を図る実践活動を行うために、健康な子どもの健やかな成長を基礎として、観察の力を医療的視点で磨くための知識を習得する。また、母子保健制度、児童福祉法等の制度によって成長が支えられていることを理解する。更に心を育むことの重要性を自己の成長の経験を活用しつつ、保育者としての役割を理解する。				
<授業方法> 配布された資料に従い、学習を進める。必要に応じて、質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。				
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義（生命の保持と母性・父性の育成、健康とは）（課題あり） 第 2 回 健康の概念と健康指標（課題あり） 第 3 回 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題（課題あり） 第 4 回 地域における保健活動と子ども虐待防止（課題あり） 第 5 回 身体発育及び運動機能の発達と保健（課題あり） 第 6 回 生理機能の発達と保健 生理機能の発達①（呼吸器、循環器、免疫、消化器） 生理機能の発達②（尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能） 生理機能の発達③（睡眠、感覚、神経、精神、情緒、行動）（課題あり） 第 7 回 健康状態把握及び心身の不調等の早期発見の重要性（課題あり） 第 8 回 発育・発達の把握と健康診断（課題あり） 第 9 回 保護者との情報共有（課題あり） 第 10 回 子どもの主な疾病の特徴①先天異常（課題あり） 第 11 回 子どもの主な疾病の特徴②循環器系・呼吸器系・血液・消化器（課題あり） 第 12 回 子どもの主な疾病の特徴③アレルギー・泌尿器系・内分泌代謝（課題あり） 第 13 回 子どもの主な疾病の特徴④脳・運動器・耳・眼・皮膚・歯の病気（課題あり） 第 14 回 子どもの主な疾病の特徴⑤感染症（課題あり） 第 15 回 予防接種				
<授業時間外学修> 授業 1 ～ 1 5 において家庭学習（課題 1 ～ 1 2、課題成果物への取り組み：6 0 分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより提出）				
<テキスト> 子どもの保健 谷田貝公昭監修、吉田直哉・糸井志津乃編著				
<教科書・参考資料> 保育所保育指針解説平成 2 9 年 3 月告示 厚生労働省				
<成績評価> 学生に対する評価：①提出課題 9 6 点（課題 1 ～ 1 2 が各 8 点、ミニテスト含む）②成果物評価 4 点（配点はルーブリックに示す。） ＊課題は、授業毎課される（ただし、課題 1 ～ 1 2 及び課題成果物と授業回数数は一致しない）。 ＊欠席に伴う授業資料配布は、希望者のみ職員室で行う。 ＊欠席に伴う提出物は、指定の形式でのみ受け付け、更に課題評価点は通常とは異なる。 ①②を合計で 1 0 0 点。8 0 点以上「優」、7 0 ～ 7 9 点「良」、6 0 ～ 6 9 点「可」、5 9 点以下「不可」とする。				
<備考> 特になし。				

子どもの理解と援助			竹内 真悟	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「幼児理解の理論及び方法」			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの理解と援助」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 幼児が経験する「つまずき」の意味を理解するためには、集団と個の関係、背景にある家庭や地域とのつながり、発達や学びの過程への理解が欠かせない。保育現場における幼児理解の意義を理解し、心理と保育の視点から保育実践を考察し、記録し、共有する方法を身に付ける。				
<授業の到達目標> （１）一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 到達目標：１）幼児理解の意義を理解している。 ２）幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 ３）幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。 （２）一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。 到達目標：１）観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 ２）個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 ３）幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 ４）保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。				
<授業方法> ・毎回テーマに沿った事例を提示し、グループワークを中心に意見共有や解説を行う。 ・毎回授業内容に関して、考えたこと、学んだこと、実習や自分の経験から連想したこと、等を振り返りにまとめ、次回の授業で紹介することで、テーマの補足や展開を行う。 ・授業の後半では、自分の経験した事例をもとに、全体で模擬ケースカンファレンスを行う。				
<授業計画> 第１回：オリエンテーション：幼児理解の意義（１）-１） 第２回：子ども理解はなぜ大切か：気になる行動と幼児理解の方法（１）-１）、（１）-２） 第３回：幼児の愛着形成と他者の役割：安全基地と分離不安（１）-２）、（１）-３） 第４回：幼児の認知発達と他者の役割：年齢による遊びの変化（１）-２）、（１）-３） 第５回：幼児を取り巻く世界の広がり：家族関係と援助資源（１）-３）（２）-２）、（２）-４） 第６回：幼児の「つまずき」の意味：子ども理解の様々な視点（１）-３）、（２）-３） 第７回：「つまずき」への対応１：共感的理解の視点から（１）-３）、（２）-３） 第８回：「つまずき」への対応２：客観的理解の視点から（２）-１）、（２）-２）（２）-３） 第９回：理解を深めるための振り返り１：保育場面の観察と記録（２）-１）、（２）-２） 第１０回：理解を深めるための振り返り２：PDCA と仮説検証（２）-１）、（２）-２） 第１１回：エピソードの捉え方（２）-３）、（２）-４） 第１２回：エピソードのまとめ方（２）-１）、（２）-２） 第１３回：子ども理解を共有する１：ケースカンファレンスとは（２）-１）、（２）-２） 第１４回：子ども理解を共有する２：保護者対応と発表準備（２）-３）、（２）-４） 第１５回：子ども理解を共有する３：発表とまとめ（２）-３）、（２）-４）				
<授業時間外学修> 事後学習（２時間）…Google Form で振り返りを提出、事前学習（２時間）…予習課題へ取り組む				
<テキスト> 特になし				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領(平成２９年３月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針（平成２９年３月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 毎回の振り返り（３０％）、発表（３０％）と最終課題の提出（４０％）によって評価する。				
<備考> 特になし				

子ども家庭支援の心理学			黒石 憲洋	
必修科目	講義	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子ども家庭支援の心理学」			
担当教員の実務経験	－			
<授業概要> 主な内容としては、①生涯発達の理論に基づいて各発達段階における発達課題と心理社会的危機について学修する。②家族・家庭の機能に関する社会学的理論に基づいてさまざまな家族・家庭の在り方について検討する。③家族・家庭の問題について因果的な理解を越えてシステム論的な視点からとらえ直しをおこなう。④子どものウェル・ビーイングに影響を与える家族・家庭を含めた社会環境要因を考察する。				
<授業の到達目標> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
<授業方法> 講義、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。				
<授業計画> 第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、子ども家庭支援の心理学で学ぶこと 第2回：発達とは：生涯を通じた変化、各発達段階における発達課題と危機 第3回：生涯発達（1）：乳幼児期から幼児期にかけての発達 第4回：生涯発達（2）：児童期から思春期・青年期にかけての発達 第5回：生涯発達（3）：成人期から高齢期にかけての発達 第6回：道徳性の発達 第7回：対人関係の発達 第8回： 集団機能の社会学的理解 第9回： 家族・家庭の在り方を考える 第10回：システム論とは 第11回：家族・家庭のシステム論的理解 第12回：家族・家庭の発達 第13回：子どもの生活・生育環境としての家族・家庭：虐待・ネグレクト等 第14回：子どものウェル・ビーイングを考える 第15回：まとめと定期試験				
<授業時間外学修> 事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。				
<テキスト> テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。				
<参考資料> 吉川悟(編)（1999）. システム論からみた学校臨床 金剛出版				
<成績評価> 授業内で実施する期末試験において、合格点（100 点満点中、60 点以上）を満たせば、単位を認定する。				
<備考> 特になし				

子ども家庭支援論			富田 貴代	
必修／選択科目	講義	2 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「子ども家庭支援論」			
担当教員の実務経験	児童相談所内一時保護所にて保育士として（入所児童の支援）勤務			
<授業概要> 現代の社会的状況や家庭環境の変化を踏まえ、子育て家庭への支援とは何か、その必要性、意義、目的、機能、方法等について保育士の専門性を生かした役割や求められる基本的態度、力量を持つことを学び、子ども家庭支援を捉え考察を深める。				
<授業の到達目標> ・子育て家庭に対する支援の意義、目的を理解する。 ・保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ・子育て家庭のニーズに応じた多数の支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題を理解する。				
<授業方法> テキストに沿った講義を中心に行う。関連映像の視聴。				
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション（授業内容、15 回の流れ、評価）、子ども家庭支援とは 第 2 回 子ども家庭支援の意義と役割、目的と機能 第 3 回 子ども家庭支援における保育所の機能と保育士の役割①保育の専門性を生かした子ども家庭支援 第 4 回 ②子どもの育ちの喜びの共有、保護者との相互理解 第 5 回 ③保護者及び地域の子育てを自ら実践する支援 第 6 回 ④保育士に求められる基本的態度 第 7 回 ⑤家庭の状況に応じた支援 第 8 回 地域の資源の活用、自治体・関係機関との連携、協力 第 9 回 子育て支援に関わる社会資源、子育て支援施策・次世代育成支援施策 第 10 回 多様な家庭とその支援①支援の内容と対象 第 11 回 ②保育所等を利用する子どもの家庭支援 第 12 回 ③地域の子育て家庭への支援 第 13 回 ④要保護児童等及びその家庭に対する支援 第 14 回 ⑤子ども家庭支援に関する現状と課題 第 15 回 授業の振り返りと期末試験				
<授業時間外学修> テキストをもとに予習することを薦める。事後学習として、授業ノートや配布資料を整理し、内容確認を行い理解しておくこと。				
<テキスト> 守巧編『子ども家庭支援論 保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす』第 2 版 萌文書林、2025 年。				
<参考書・参考資料> 『最新 保育士養成講座 第 10 巻 子ども家庭支援』全国社会福祉協議会 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 期末試験（50％） レポート（30％） 授業態度（20％）				
<備考> 特になし				

子ども家庭福祉			蠣崎 尚美	
必修科目	講義	2 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「子ども家庭福祉」			
担当教員の実務経験	乳児家庭全戸訪問事業（厚生労働省）にて訪問員として勤務 地域包括支援センターにて社会福祉士（非常勤）として勤務			
<授業概要> 現代の子どもの育つ環境の実態について子ども家庭福祉の視点から具体的に学ぶことを通し、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や子どもの権利擁護、保育者の専門性と役割について理解を深める。				
<授業の到達目標> 1 子ども家庭福祉についての基本的理念について学ぶ。 2 子ども家庭福祉施策及びとりまく諸状況の変化について説明できる。 3 子ども家庭福祉に関わる社会の仕組みや法律・制度について体系的に学び、説明できる。				
<授業方法> 本科目では、講義による解説を中心とし、関連する視聴教材も取り入れる。授業毎に所定の課題に取り組み、それに基づいた授業となる。毎回の授業ではリアクションペーパーを記入し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用することを求める。グループワーク、調べ学習を行うこともある。				
<授業計画> 第1回：子ども家庭福祉の理念と概念 第2回：子どもの権利保障 第3回：子ども家庭福祉の歴史的変遷、諸外国の動向 第4回：子ども家庭福祉の展開 第5回：児童福祉法の成立と改正 第6回：子ども家庭福祉等機関・地域活動 第7回：子ども家庭福祉サービス・養護 第8回：子ども家庭福祉サービス・障害 第9回：子ども家庭福祉行政の仕組み 第10回：母子保健と子どもの健全育成 第11回：多様な保育へのニーズ 第12回：子ども福祉サービスの実際／障害 第13回：子ども福祉サービスの実際／ひとり親 第14回：子ども福祉サービスの実際／里親 第15回：ふりかえりと試験				
<授業時間外学修> 【事後学習】授業内容を読み返し、疑問や課題を整理する。 【次回事前学習】事前に Google クラスルームから提示する授業資料を読み、提示された課題に取り組む。教科書を読み、理解しておく。				
<テキスト> 保育と子ども家庭福祉第2版 櫻井奈津子 編 株式会社みらい				
<参考書・参考資料> 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> 期末試験 50% 、レポート 20%、各授業回のリアクションペーパー30%				
<備考> 第1回目のオリエンテーションには必ず出席すること。				

子育て支援			小林 根	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「子育て支援」			
担当教員の実務経験	介護施設にて社会福祉士として勤務			
<授業概要> 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。				
<授業の到達目標> 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。				
<授業方法> 授業回数ごとに割り当てられたテーマに沿ってテキスト内の実践事例を読み解き、子育て支援に必要な基本姿勢や専門的知識・技術を学ぶ。パワーポイントを活用し、授業を進めながらワークシートを完成させ、授業後半で提出してもらう。ワークシートの内容を評価し、学習の進捗状況を確認する。				
<授業計画> 第 1 回： 子育て支援とは 第 2 回： 子育て支援の意義 第 3 回： 子育て支援の基本的価値・倫理 第 4 回： 子育て支援の基本姿勢 第 5 回： 子育て支援の基本的技術 第 6 回： 園内・園外との連携と社会資源 第 7 回： 記録・評価・研修 第 8 回： 日常会話を活用した子育て支援 第 9 回： 文章を活用した子育て支援 第 1 0 回： 行事などを活用した子育て支援 第 1 1 回： 環境を活用した子育て支援 第 1 2 回： 地域子育て支援拠点における支援 第 1 3 回： 入所施設における子育て支援 第 1 4 回： 通所施設における子育て支援 第 1 5 回： まとめと今後の課題（テスト）				
<授業時間外学修> 授業後半に次回授業の予告を行い、テキストの実践事例について次回までに読んでおくよう指導する。				
<テキスト> 子育て支援（15 のストーリーで学ぶワークブック）萌文書林				
<参考書・参考資料> 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領				
<成績評価> 各授業毎の演習ワークシート提出 70%、テスト 30%				
<備考> 特になし。				

社会的養護 A			河野 暢明	
必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「社会的養護 A」			
担当教員の実務経験	障害者支援施設に生活支援員、相談員、心理職として勤務 障害福祉サービス事業所に主任相談支援専門員、法人管理職として勤務			
＜授業概要＞ 本科目では、児童福祉施設に自立支援という新たな機能や役割が求められているという動向を踏まえ、現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題、児童養護の体系、歴史、政策、原理等、社会的養護に関する基本的事項について、理解することを目指す。				
＜授業の到達目標＞ 1. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、説明することができる。 2. 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明することができる。 3. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解し、説明することができる。 4. 「社会的養護ビジョン」について理解し、説明することができる。				
＜授業方法＞ 本科目は、講義を中心に行ない、社会的養護の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について学習する。また、子どもを支援する現場の課題について、個人ワークやグループワークを取り入れ授業を行なう。				
＜授業計画＞ 第 1 回 オリエンテーション、社会的養護の理念と概念 第 2 回 社会的養護の歴史の変遷 第 3 回 子どもの人権擁護と社会的養護 第 4 回 社会的養護の基本原則 第 5 回 社会的養護における保育士等の倫理と責務 第 6 回 社会的養護の制度と法体系 第 7 回 社会的養護のしくみと実施体系 第 8 回 社会的養護とファミリーソーシャルワーク 第 9 回 社会的養護の対象と支援のあり方 第 10 回 家庭養護と施設養護 第 11 回 社会的養護に関わる専門職 第 12 回 社会的養護に関する社会的状況 第 13 回 施設等の運営管理の現状と課題 第 14 回 被虐待児童等の虐待防止の現状と課題 第 15 回 社会的養護と地域福祉の現状と課題、試験				
＜授業時間外学修＞ 【事後学習】 授業内容についてまとめ、わからなかった用語を復習する。 【事前学習】 教科書該当箇所を読み、考察しておく。				
＜テキスト＞ 新 基本保育シリーズ 6 社会的養護 I 第 2 版 中央法規 編集 相澤仁 林浩康				
＜参考書・参考資料＞ 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
＜成績評価＞ 小テスト 30%、期末試験 70%				
＜備考＞ 第 1 回目のオリエンテーションには必ず出席すること。				

社会的養護 B			河野 暢明	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「社会的養護 B」			
担当教員の実務経験	障害者支援施設に生活支援員、相談員、心理職として勤務 障害福祉サービス事業所に主任相談支援専門員、法人管理職として勤務			
<授業概要> 本科目は、社会的養護 A の内容を理解した上で、具体的に社会的養護を担う施設のあり方や施設養護全体について理解する。				
<授業の到達目標> 1. 施設養護及び他の社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、作成を行なうことができる。 3. 社会的養護に関わる相談援助の方法と技術について理解する。 4. 社会的養護における子ども虐待の防止と家族支援について理解する。				
<授業方法> 講義、個人ワーク、グループワーク、ロールプレイ、参加型学習				
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション、アイスブレイク、子どもの権利擁護 第 2 回 社会的養護における子どもの理解 第 3 回 社会的養護の内容①日常生活支援 第 4 回 社会的養護の内容②心理的支援 第 5 回 社会的養護の内容③自立支援 第 6 回 施設養護の生活特性および実際：乳児院等、障害児施設等 第 7 回 家庭養護の生活特性および実際 第 8 回 アセスメントと個別支援計画の作成 第 9 回 ソーシャルワーク演習（音楽を用いたソーシャルワーク） 第 10 回 記録及び自己評価 第 11 回 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実際 第 12 回 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実際 第 13 回 社会的養護におけるソーシャルワーク 第 14 回 社会的養護に家庭支援 第 15 回 今後の社会的養護の課題と展望、試験				
<授業時間外学修> 【事後学習】授業を通して、何が理解できたか、自分ならどう活かしていけるかをまとめる。 【事前学習】わからない専門用語を事前に調べておく。				
<テキスト> 新 基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ 中央法規				
<参考書・参考資料> 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> 小テスト 40% 期末試験 60%				
<備考> 演習科目ですので積極的に参加して頂きたいです。				

社会福祉			亀田 良克	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「社会福祉」			
担当教員の実務経験	－			
<授業概要> 社会福祉の意義、理念、歴史、制度、体系等の社会福祉の基礎を学ぶ。また、子ども家庭支援の視点を身につけるとともに、相談援助の理論や方法等の学習を通して福祉サービス利用者を適切かつ円滑に支援する態度や行動の基礎を培う。さらに、学んだ知識や技術を土台にして、さまざまな社会福祉が抱える問題や諸課題について考察する。				
<授業の到達目標> ・現代社会における社会福祉の意義、歴史ならびに子ども家庭支援の視点について理解する。 ・社会福祉制度及びその実施体系について理解する。 ・社会福祉における相談援助について理解する。 ・社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。 ・社会福祉の動向と今後の課題について考究できる姿勢を構築する。				
<授業方法> 講義を中心に進めていきますが、個人ワークやグループディスカッション、前後左右の受講者同志による討議等も実施します。また、適宜視聴覚教材も使用します。幅広い視点や知識の獲得を目指して積極的に参加しましょう。				
<授業計画> 第 1 回 イントロダクション（「社会福祉」で何を学ぶのか、授業の流れと評価） 第 2 回 社会福祉の理念と歴史的変遷 第 3 回 子ども家庭支援と社会福祉 第 4 回 社会福祉の制度と法体系 第 5 回 社会福祉の実施機関と社会福祉施設 第 6 回 社会福祉にかかわるさまざまな専門職 第 7 回 社会保障および関連制度の概要 第 8 回 相談援助の意義と機能 第 9 回 相談援助の理論と方法 第 10 回 相談援助の対象と過程 第 11 回 社会福祉における利用者保護の仕組み 第 12 回 社会福祉の現代的課題（少子高齢社会における子育て支援） 第 13 回 社会福祉の現代的課題（共生社会の実現と障害者施策など） 第 14 回 諸外国の社会福祉の動向 第 15 回 まとめと試験				
<授業時間外学修> 毎授業終了時に次の講義内容をお伝えします。テキストの該当箇所を事前に読むなどして次の授業に臨んで下さい。授業後には、配布資料等でポイントをまとめる等して試験に備えておきましょう。				
<テキスト> 「社会福祉 新・基本保育シリーズ④」監修 公益社団法人 児童育成協会、松原康雄・朴洋一・金子充編、中央法規出版、2019				
<参考書・参考資料> 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> 授業内試験 80 点および振り返りシート 20 点の計 100 点満点のうち 60 点以上で単位を認定する。				
<備考> 特になし				

情報機器の操作 A			協 みどり	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分		「情報機器の操作」		
保育士養成課程の区分		学校独自の科目		
担当教員の実務経験		－		
<授業概要> 保育士、幼稚園教諭業務に必要な基本的 PC スキルを身につけます。園だよりなど想定される業務内容に応じた課題の作成を通して、文書作成（Word）、数値処理（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本スキルを習得します。加えて、現代社会に広がる多数の情報から、必要とする情報を的確に収集・判断・評価・発信する能力「情報リテラシー」の基本を学習します。				
<授業の到達目標> Word：文章作成、編集に関する基本スキルの習得 Power Point：ポスターやしおりなど印刷資料作成に関する基本スキルの習得				
<授業方法> テーマに沿った課題を PC の操作をしながら学習し成果物として提出します。				
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 PC 基本操作 Office ソフト説明 第 3 回 Word：基本機能の確認と操作 第 4 回 Word：文書の作成 第 5 回 Word：表の作成 第 6 回 Word：文書の編集 第 7 回 Word：表現力をアップする 第 8 回 Word：課題演習「園だより」の作成 第 9 回 PowerPoint：基本機能の確認と操作 第 10 回 PowerPoint：プレゼンテーションの作成 第 11 回 PowerPoint：図やオブジェクトの挿入と編集 第 12 回 PowerPoint：「園のお祭りポスター」の作成 第 13 回 PowerPoint：情報の配置と印刷 第 14 回 PowerPoint：課題演習「遠足のしおり」の作成 第 15 回 まとめ				
<授業時間外学修> 教科書や資料をよく読み内容の理解に努めてください。課題は仕様をよく確認して作業してください。				
<テキスト> 杉本くみ子・大澤栄子（2022）『30 時間アカデミック Office2021』実教出版 （USB メモリ等データ保存用デバイス（8GB 以上）の準備を推奨します。初回は不要です。）				
<参考書・参考資料> 阿部正平ほか（2018）『保育者のためのパソコン講座』萌文書林 他は必要に応じ随時紹介します。				
<成績評価> 最終成果物（課題演習）の評価 60% 授業への参加度 40%（授業内の小課題やアンケート提出）				
<備考> 特になし				

情報機器の操作 B			協 みどり	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分		「情報機器の操作」		
保育士養成課程の区分		学校独自の科目		
担当教員の実務経験		－		
<授業概要> 保育士、幼稚園教諭業務に必要な基本的 PC スキルを身につけます。園だよりなど想定される業務内容に応じた課題の作成を通して、文書作成（Word）、数値処理（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本スキルを習得します。加えて、現代社会に広がる多数の情報から、必要とする情報を的確に収集・判断・評価・発信する能力「情報リテラシー」の基本を学習します。				
<授業の到達目標> Power Point：プレゼンテーション資料作成・発表に関する基本スキルの習得 Excel：データ記録、分析に関する基本スキルの習得 情報リテラシー：ICT利活用と情報の見極めに関する知見の理解・把握				
<授業方法> テーマに沿った課題を PC の操作をしながら学習し成果物として提出します。				
<授業計画> 第 1 回 PowerPoint：図表・グラフ・表の挿入と編集 第 2 回 PowerPoint：特殊効果の設定 第 3 回 PowerPoint：「園での生活紹介（プレゼン資料）」の作成 第 4 回 Excel：基本機能の確認と操作 第 5 回 Excel：表の作成 第 6 回 Excel：いろいろな数式 第 7 回 Excel：グラフと図形 第 8 回 Excel：データベースの利用 第 9 回 Excel：課題演習「園児名簿」の作成 第 10 回 情報リテラシー：プレゼンテーションの基本技能 第 11 回 情報リテラシー：グラフの活用と読み取り 第 12 回 情報リテラシー：データ分析・読解の基礎 第 13 回 情報リテラシー：情報を吟味し見極める 第 14 回 最終課題の作成 第 15 回 まとめ				
<授業時間外学修> 教科書や資料をよく読み内容の理解に努めてください。課題は仕様をよく確認して作業してください。				
<テキスト> 杉本くみ子・大澤栄子（2022）『30 時間アカデミック Office2021』実教出版 （USB メモリ等データ保存用デバイス（8GB 以上）の準備を推奨します。初回は不要です。）				
<参考書・参考資料> 阿部正平ほか（2018）『保育者のためのパソコン講座』萌文書林 他は必要に応じ随時紹介します。				
<成績評価> 最終成果物（課題演習）の評価 60% 授業への参加度 40%（授業内の小課題やアンケート提出）				
<備考> 特になし				

人間関係			一色 里絵	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	私立認定こども園（移行前幼稚園）にて教諭として勤務			
<授業概要> 領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、「人間関係」の観点から子どもの姿をとらえ、発達の過程を学ぶ。子どもが人とかかわりの中でよろこびや楽しさを味わい、怒りや葛藤を乗り越える経験を通じて、主体的で対話的な深い学びが実現できるような保育を考え実践する力を養うことを目指す。				
<授業の到達目標> ・領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 ・子どもの人とかかわる力の発達の過程を理解し、保育者としてのあり方を考える。 ・領域「人間関係」の保育実践の動向について理解し、保育を具体的に構想する方法を身につける。				
<授業方法> 事例を通して子どもの人とかかわる力の育ちについて理解し、保育のつくり方を考える。。 グループディスカッションによって、人とかかわることについての理解を深める。				
<授業計画> 第1回 オリエンテーション/領域「人間関係」について・なぜ「人間関係」なのか 第2回 領域「人間関係」のねらいと内容 第3回 それぞれの願いを大切に過ごす3歳未満児の生活 第4回 安心感からひろがる3歳児の姿 第5回 遊び込み伝え合おうとする4歳児の姿 第6回 目標を共にし、協働する5歳児の姿 第7回 子ども理解から保育をつくる 第8回 指導案の作成 第9回 模擬保育① 第10回 模擬保育② 第11回 模擬保育の振り返り 第12回 人生を支える力「ひびきを聴く」 第13回 多様な子どもとつくる保育 第14回 幼児期と学童期のかけはしとしての保育 第15回 まとめ				
<授業時間外学修> 学習内容を復習し、自分の言葉で説明できるようにしておく。課題を行う。				
<テキスト> アクティベート保育学 08 保育内容「人間関係」 大豆生田啓友・岩田恵子・久保健太 [編著]ミネルヴァ書房				
<教科書・参考資料> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> 授業内ワークシート 60% 授業内試験 40%				
<備考> 特になし				

体育講義			小貫 凌介	
必修科目	講義	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分		「体育」		
保育士養成課程の区分		教養科目「体育」		
担当教員の実務経験		—		
<授業概要>				
① 体力の変化と生涯スポーツの必要性について学習する。年を重ねることによって変化する体力について学び、健康的な生活を送る上で必要なスポーツとの関わりについて学習する。				
② 幼児教育における体育・スポーツ、幼児期の発育発達に即した体育やスポーツの在り方について、その論理的根拠を学習する。				
③ 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。				
<授業の到達目標>				
① 健康な生活を送る上でスポーツを実践することは、とても効果的である。では、それが何故、必要であるのか、どの様に、実践すれば良いのかについて生理学的、心理学的および社会学的観点から学び、理解をする。				
② 幼児期における骨格形態の変化およびそれに伴う機能の変化から、それに応じた運動、スポーツについて学ぶ。特に幼児期運動指針ガイドブックを参照し、幼児期の運動の在り方について包括的に理解をする。				
<授業方法>				
教員は講義形式で実施し、学生はノートテイクを行う。また、学生が講義内容に関する質問や疑問を持つ場合、随時、教員と学生の間でディスカッションを行う。				
<授業計画>				
第 1 回 ガイダンス、授業の趣旨、概要、評価について				
第 2 回 身体活動について				
第 3 回 体力について①（体力の分類、加齢と体力の関係）				
第 4 回 体力について②（体力の性差、月経）				
第 5 回 体力トレーニングの基礎①（基本原則）				
第 6 回 体力トレーニングの基礎②（健康増進）				
第 7 回 体力トレーニングの基礎③（疲労回復）				
第 8 回 体力トレーニングの基礎④（栄養摂取）				
第 9 回 スポーツと心の関り（メンタルトレーニング）				
第 10 回 体育とスポーツ（体育とスポーツの違い、スポーツの概念）				
第 11 回 スポーツの特徴①（様々なスポーツの特徴）				
第 12 回 スポーツの特徴②（球技スポーツを経験する）				
第 13 回 スポーツの特徴③（スポーツと障害について）				
第 14 回 新体力テスト（体力測定の意義について）				
第 15 回 振り返り・まとめ				
<授業時間外学修>				
次回の授業内容に基づき調べ学習(資料やテキストを読む)を行う。				
<テキスト>				
特になし				
<参考書・参考資料>				
特になし				
<成績評価>				
期末テスト(100%)				
<備考>				
特になし				

体育実技			渡辺 潤一	
必修科目	実技	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分		体育		
保育士養成課程の区分		教養科目「体育」		
担当教員の実務経験		—		
<授業概要> ・体育実技（含レクリエーション指導法）及び保健体育講義。 ・幼児期における運動の意義や幼児期の運動のあり方について学ぶ。				
<授業の到達目標> ・体育実技（含レクリエーション指導法）及び保健体育講義を通して自身の状況を把握し、自らが（保育者としても）健康の保持増進を図ることができるようになること。 ・スポーツを通して良好な人間関係を作るためのコミュニケーション能力の向上を養う。 ・将来保育の現場において子どもたちに対して実践できるレクリエーション財の技術を習得する。				
<授業方法> ・体育館でのスポーツ・レクリエーション実技及び教室での講義等。				
<授業計画> 第1回：授業オリエンテーション及び軽スポーツの実施 第2回：幼児期における運動の意義。軽スポーツの実施 第3回：幼児期における運動のあり方。実技（バスケットボール導入） 第4回：幼児期における基本的な動き。実技（バスケットボール基本練習） 第5回：幼児期における経験しておきたい動き。実技（バスケットボールゲーム1） 第6回：子どもの応急手当。実技（バスケットボールゲーム2） 第7回：レクリエーション指導法 第8回：レクリエーション指導法 第9回：レクリエーション指導法 第10回：レクリエーション指導法 第11回：実技（バレーボール基本練習） 第12回：実技（バレーボールゲーム1） 第13回：実技（バレーボールゲーム2） 第14回：実技（バレーボールゲーム3） 第15回：レポート課題の説明及び授業のまとめ。				
<授業時間外学修> ・授業内容の予習復習。				
<テキスト> 特になし				
<参考書・参考資料> 必要に応じて、適宜資料配布を行う。				
<成績評価> ① 授業への取り組み：40％ ② 課題レポート等：30％ ③ 実技試験：30％				
<備考> 特になし				

特別支援教育 A			齋藤 澄子	
必修科目	講義	必修科目	講義	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「障害児保育」			
担当教員の実務経験	小学校にて通常学級担任・特別支援学級担任・主幹教諭・副校長として勤務 教育委員会事務局にて人材育成担当指導主事として勤務			
<授業概要> 特別な支援を必要とする幼児・児童の特性や心身の発達、生活上の困難について理解し、特別な教育的ニーズに応じる保育、指導や支援のあり方を具体的に学ぶ。また、障害のある子どもの家庭との連携のあり方を学び、保護者と共に子どもを育てることができるようにする。				
<授業の到達目標> ○発達障害等様々な特別な支援を必要としている幼児・児童が、保育・教育活動において達成感や自己肯定感を得、生きる力を身に付けることができるようにするための指導や支援のあり方を修得する。 ○幼児・児童の個別の教育的ニーズに対して保護者や関係機関と連携しつつ、保育園・幼稚園・認定こども園が組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することができる。				
<授業方法> テキストの内容に準じて、講義を進める。必要に応じて、課題学習を取り入れたりペア学習やグループワークを行ったりして、協働的な学習を重視しながら学びを深めていく。授業の最後にはリフレクションタイムをとり、授業の振り返りを行う。				
<授業計画> 第1回：オリエンテーション 授業の進め方について 第2回：障害とは？特別支援教育とは？ 第3回：障害児保育の歴史と特別支援教育 第4回：障害児保育・特別支援教育の基礎基本① 発達評価 第5回：障害児保育・特別支援教育の基礎基本② 対象児と支援の場 第6回：障害の理解と保育① 知的障害 第7回：障害の理解と保育② 肢体不自由 第8回：障害の理解と保育③ 視覚・聴覚障害 第9回：発達が気になる子どもの理解と保育① 概論 第10回：発達が気になる子どもの理解と保育② 自閉症スペクトラム障害 第11回：発達が気になる子どもの理解と保育③ 注意欠陥・多動性障害 第12回：発達が気になる子どもの理解と保育④ 学習障害 第13回：多様な子どもたちを支援するために 貧困や外国に繋がる子どもへの支援 第14回：周りの子どもたちとの関わりや様々な連携を活用した支援の発展 学びの振り返り 第15回：講義のまとめ、確認試験				
<授業時間外学修> 【予習】 事前にテキスト次回の学習範囲を必ず読み、重要箇所をラインしてくること 【復習】 授業後のノートの整理やスライド資料を確認しながら学習内容を振り返ること。				
<テキスト> 「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」（前田泰弘編著）萌文書林 2019 年				
<参考書・資料> 「周りが変われば、子どもは変わる！」（齋藤澄子著）翔雲社 2021 年				
<成績評価> 期末テスト 50%、課題レポートと各回の授業後コメント 50%				
<備考> 特になし				

特別支援教育 B			齋藤 澄子	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「特別支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「障害児保育」			
担当教員の実務経験	小学校にて通常学級担任・特別支援学級担任・主幹教諭・副校長として勤務 教育委員会事務局にて人材育成担当指導主事として勤務			
<授業概要> 特別な支援を必要とする幼児・児童の特性や心身の発達、生活上の困難について理解し、特別な教育的ニーズに応じる保育、指導や支援のあり方を具体的に学ぶ。また、障害のある子どもの家庭との連携のあり方を学び、保護者と共に子どもを育てることができるようにする。				
<授業の到達目標> ○発達障害等様々な特別な支援を必要としている幼児・児童が、保育・教育活動において達成感や自己肯定感を得、生きる力を身に付けることができるようになるための指導や支援のあり方を修得する。 ○幼児・児童の個別の教育的ニーズに対して保護者や関係機関と連携しつつ、保育園・幼稚園・認定こども園が組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することができる。				
<授業方法> テキストの内容に準じて、講義を進める。必要に応じて課題学習を取り入れたりペア学習やグループワークを行ったり、協働的な体験を重視して学びを深めていく。授業の最後にはリフレクションタイムをとり、授業の振り返りを行う。				
<授業計画> 第 1 回： オリエンテーション 特別支援教育の理念 第 2 回： 子ども理解に基づく計画の作成① 子どもの特性の理解 第 3 回： 子ども理解に基づく計画の作成② 個別支援計画 第 4 回： 発達をうながす環境と支援 第 5 回： 他者との関わりと育ちあい 第 6 回： 組織的・協働的な指導・支援体制 第 7 回： 家庭との連携① 障害認知 第 8 回： 家庭との連携② 保護者支援 第 9 回： 障害の早期発見と支援 第 10 回： 就学に向けての支援 第 11 回： 関連資源の現状と課題と支援の場のつながり 第 12 回： インクルーシブ教育システムの実現に向けて 第 13 回： 学習の振り返り 課題レポートの作成 第 14 回： ポスターセッション 第 15 回： 確認試験 最終講義				
<授業時間外学修> 【予習】 事前にテキスト次回の学習範囲を必ず読み、重要個所をラインしてくること 【復習】 授業後のノートの整理やスライド資料を確認しながら学習内容を振り返ること。				
<テキスト> 「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」(前田泰弘編著) 萌文書林 2019 年				
<参考書、参考資料> 「周りが変われば、子どもは変わる！」(齋藤澄子著) 翔雲社 2021 年				
<成績評価> 期末テスト 50%、課題レポートと各回の授業後コメント 50%				
<備考> 特になし				

日本国憲法			宮田 史彦	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分		日本国憲法		
保育士養成課程の区分		教養科目「外国語、体育以外の科目」		
担当教員の実務経験		公立高校にて社会科（地歴公民科）教諭として勤務		
<授業概要> 日本国憲法の成立とその理念について概説し、基本的人権の特性や問題点について、条文の解釈に触れながら社会生活で生じている事象や判例を通じて検証する。また、人権保障のための統治機構の機能や平和主義を基調とする安全保障について考察する。				
<授業の到達目標> 日本国憲法を学ぶことで人権感覚を養い、他への思いやりと奉仕の精神をもって保育・幼児教育の実践にあたるとともに、社会におけるさまざまな事象に対して自分の考えをもち、他と協力して生きていく力を身につける。				
<授業方法> 講義				
<授業計画> 第 1 回 憲法と立憲主義：法体系と憲法の位置づけ、立憲主義の意義について 第 2 回 日本国憲法の成立過程と基本原理：大日本帝国憲法（明治憲法）と日本国憲法 第 3 回 基本的人権の原理：人権の主体と人権の諸形式 第 4 回 幸福追求権と自己決定権：憲法第 13 条と新しい人権 第 5 回 法の下での平等：憲法第 14 条をめぐる判例からみる課題 第 6 回 自由権Ⅰ：思想・良心の自由，信教の自由 第 7 回 自由権Ⅱ：自由に学び，表現する権利 第 8 回 自由権Ⅲ：経済活動の自由 第 9 回 社会権Ⅰ：生存権をめぐる問題 第 10 回 社会権Ⅱ：教育を受ける権利，労働者の権利 第 11 回 統治機構Ⅰ：国を治める仕組み（国会と選挙制度） 第 12 回 統治機構Ⅱ：国を治める仕組み（内閣と地方自治） 第 13 回 統治機構Ⅲ：国を治める仕組み（裁判所の役割と裁判員制度） 第 14 回 平和主義と国を守ること：安全保障とは何か 第 15 回 講義の振り返り，試験とまとめ				
<授業時間外学修> 各講義後の課題レポートを期限まで提出する。（授業の振り返りと理解の確認）				
<テキスト> ・橋本勇人 編『保育と日本国憲法』（みらい社）ISBN978-4-86015-460-8				
<参考書・参考資料> ・幼稚園教育要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 30 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） ・保育所保育指針（平成 30 年 3 月告示 厚生労働省）				
<成績評価> ・期末試験：70% ・各授業で提示する課題レポート：30%				
<備考> 特になし				

乳児保育 A			平原 藍	
必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分				
保育士養成課程の区分		保育内容・方法に関する科目「乳児保育Ⅰ」		
担当教員の実務経験		私立保育園で保育士として勤務。公立幼稚園・私立幼稚園で幼稚園教諭として勤務。		
<授業概要> ・乳児保育の歴史的変遷、乳児保育の意義や目的について学ぶ ・乳児期の子どもの発達と成長とそれをふまえた援助について学ぶ ・保育の記録とともに子どもの育ちを支える大人同士の連携について学ぶ				
<授業の到達目標> ・現代社会における子育て環境の現状と課題を知り、そのうえでの乳児保育の意義・目的と役割について理解する。 ・3歳児未満児の発達と成長、特性をふまえたほいくについて理解する。				
<授業方法> 講義を中心とする。又、グループワークや調べ学習を交え理解を深めていく。				
<授業計画> 第1回 乳児保育の意義、目的、歴史的変遷など 第2回 乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 第3回 保育所における乳児保育と課題 第4回 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 第5回 家庭的保育・小規模保育等における乳児保育 第6回 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 第7回 3歳未満児の生活と環境 第8回 3歳未満児の遊びと環境 第9回 3歳未満児の成長・発達をふまえた保育者による援助や関わり 第10回 3歳未満児の成長・発達をふまえた保育における配慮 第11回 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 第12回 乳児保育の計画・記録・評価 第13回 保育者間の連携・協働 第14回 保護者との連携・協働 第15回 自治体や地域の関係機関等との連携・協働				
<授業時間外学修> 授業内容を確認し、理解の定着を図る。調べ学習等授業内で提示された課題を行う。				
<テキスト> 乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新基本保育シリーズ⑮ 児童育成協会監修 中央法規出版				
<参考書・参考資料> 保育所保育指針解説 厚生労働省、資料は適宜配布する				
<成績評価> 定期試験 60% 課題提出 40%				
<備考> 特になし				

乳児保育 B			平原 藍	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分				
保育士養成課程の区分		保育内容・方法に関する科目「乳児保育Ⅱ」		
担当教員の実務経験		私立保育園で保育士として勤務。公立幼稚園・私立幼稚園で幼稚園教諭として勤務。		
<授業概要> ・3 歳児未満児の成長・発達や特性をふまえつつ、保育者としての関わりや援助の基本的な考え方や実践について学ぶ。				
<授業の到達目標> ・乳児の成長・発達のプロセスと特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・乳児の生活や遊び、保育の方法と環境について理解する。				
<授業方法> グループワークや発表を通して理解を深めていく。				
<授業計画> 第 1 回 乳児保育の基本 第 2 回 子どもの生活の流れ（0 歳児クラス） 第 3 回 子どもの保育環境（0 歳児クラス） 第 4 回 子どもの援助の実際（0 歳児クラス） 第 5 回 子どもの生活の流れ（1 歳児クラス） 第 6 回 子どもの保育環境（1 歳児クラス） 第 7 回 子どもの援助の実際（1 歳児クラス） 第 8 回 子どもの生活の流れ（2 歳児クラス） 第 9 回 子どもの保育環境（2 歳児クラス） 第 10 回 子どもの援助の実際（2 歳児クラス） 第 11 回 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 第 12 回 集団での生活における配慮 第 13 回 環境の変化や移行に対する配慮 第 14 回 指導計画 第 15 回 まとめ（グループ発表）				
<授業時間外学修> 調べ学習等授業内で提示された課題を行う。				
<テキスト> 乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新基本保育シリーズ⑮ 児童育成協会監修 中央法規出版				
<参考書・参考資料> 保育所保育指針解説 厚生労働省、資料は適宜配布する				
<成績評価> 課題提出 80% グループ発表 20%				
<備考> 特になし				

発達心理学			竹内 真悟	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「保育の心理学」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 子ども理解において、基礎となる「発達の視点」は必要不可欠である。 本授業では、保育者が発達の視点から子どもの育ちや内面を理解するために必要な視点や基礎的な知識を、発達心理学の代表的な理論や研究に基づき解説していく。 授業を通して、人が生まれ、成長発達していくことの不思議や驚きに開かれていくことを期待する。				
<授業の到達目標> 1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。				
<授業方法> ・毎回の振り返りを次回の授業の冒頭で共有し、補足や復習を行う。 ・講義を中心に、適宜事例や映像資料を用いる。				
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 そもそも人はなぜ発達するのか 第3回 胎児の発生と遺伝の影響 第5回 乳幼児にとっての環境 第6回 初期経験と脳の発達 第7回 知覚と運動機能の発達 第8回 言葉の発達 第9回 思考の発達 第10回 記憶の発達 第11回 感情の発達 第12回 対人関係の発達 第13回 コミュニケーションの発達 第14回 自己の発達 第15回 まとめと試験				
<授業時間外学修> 事後学習（2 時間）…毎回の授業の振り返りや質問をまとめ、Google Form で提出する。 事前学習（2 時間）…教科書の該当箇所を予習する。				
<テキスト> 新 乳幼児発達心理学〔第2 版〕 子どもがわかる 好きになる 石井正子・向田久美子編著 福村出版				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領(平成2 9 年3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成2 9 年3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針（平成2 9 年3 月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 毎回の振り返りと課題への取り組み（15％）、試験（85％）によって評価する。				
<備考> 特になし				

発展造形			羽田 顕佑	
選択必修科目	講義	2 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「発展造形」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 造形分野の専門性として、特に表現形式が持つ素材・技法的特質および造形要素の取り扱い・表現的可能性に重点を置きながら制作・表現の活動を行う。表現的探求を主とした学習者自身の経験を基に、深められた専門性の有意性について分析することで、教育者・保育者としての資質向上を目指す。				
<授業の到達目標> 1. 造形活動において、取り扱う造形要素や表現的特質を理解し、それらと対応して自身の表現意図や活動の見通しを構想・実践できる。 2. 造形分野の専門性を教育者・保育者の資質の一部と捉え、その有意性について分析できる。				
<授業方法> 講義と実技演習を複合的に行う。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。				
<授業計画> 第1回 【講義】 ガイダンス 授業の趣旨、概要、求める姿勢、評価について 第2回 【演習】 型取り彫刻①形の探索～雌型作り 第3回 【演習】 型取り彫刻②石膏流し込み 第4回 【演習】 型取り彫刻③型外し・仕上げ 第5回 【演習】 抽象表現①導入、構想（平面構成） 第6回 【演習】 抽象表現②立体化のための芯材準備 第7回 【演習】 抽象表現③張り込み（粘土造形） 第8回 【演習】 抽象表現④仕上げ、彩色 第9回 【演習】 モビール①導入、装飾物の構想 第10回 【演習】 モビール②装飾物の制作 第11回 【演習】 モビール③組み上げ・仕上げ 第12回 【講義】 各題材の振り返り／課題作成の説明・準備 第13回 【演習】 ミニチュア秘密基地（素材の複合的表現）①グループ分け・構想 第14回 【演習】 ミニチュア秘密基地（素材の複合的表現）②実制作 第15回 【演習】 ミニチュア秘密基地（素材の複合的表現）③仕上げ・鑑賞				
<授業時間外学修> 事後学修として、毎時の活動成果・進捗状況をスケッチブックにまとめること。また、各自記録する授業ノートおよび配布資料を照応・整理する機会を設けること。 事前学修として、資料の参照を指示する場合がある。				
<テキスト> 指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。				
<教科書・参考資料> 平田智久(監), 小野和, 宮野周(編著)『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』, 教育情報出版 佐善圭(編著), 『造形のじかん』, 愛智出版 幼稚園教育要領（平成29年3月告示, 文部科学省）フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示, 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示, 厚生労働省）				
<成績評価> 1. 成果物・記録(70%) 3. 最終課題(30%)				
<備考> 全ての演習への参加・所定の課題提出が、学修を完遂するための必要条件です。 実技演習を行うにあたり、教員が示す活動に適した身支度と準備を整えること。				

表現			北川 聖子	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 感性と表現に関する領域「表現」についてのねらいと内容を理解するために、「音楽・言語・身体・造形表現」活動をそれぞれ融合させながら、展開していく。 具体的には、保育現場の表現活動において活用できる教材を製作し発表したり、「季節・行事のうた」などをアレンジし、合奏したりしながら実践していく。				
<授業の到達目標> 感性と表現に関する領域「表現」についてのねらいと内容を理解する。そして、保育現場の表現活動において活用できる教材を製作する技術や、実際に製作物を使用して身体表現をしたり、音楽表現をしたりできる表現力を修得する。				
<授業方法> グループワーク、プレゼンテーションなど				
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション（授業概要の説明など） 第 2 回 感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容について 第 3 回 「造形」と「身体」による表現活動 ①「手作り楽器（マラカス・ギロ）」の製作 第 4 回 〃 〃 ②「手作り楽器」を使ったリズム遊び 第 5 回 「造形」と「音楽」による表現活動 ①「音楽がとびだす絵本」の製作 第 6 回 〃 〃 ②「音楽がとびだす絵本」の製作発表と実演 第 7 回 「音楽」と「身体」による表現活動 ①動物と遊びうた 第 8 回 〃 〃 ②手遊びうたと伝承遊び 第 9 回 「音楽」による表現活動 ①リズム楽器とメロディー楽器 第 10 回 〃 〃 ②「季節・行事のうた」のアレンジと合奏 第 11 回 「言語」と「造形」による表現活動 ①オノマトペを使ったカルタ作り 第 12 回 〃 〃 ②製作発表と遊び 第 13 回 オリジナル教材研究 ①考案・製作 第 14 回 〃 〃 ②製作発表 第 15 回 試験とまとめ				
<授業時間外学修> ・「保育」における感性と表現に関する領域「表現」についての理解を深めるために、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の該当箇所を一読すること。				
<テキスト> ・プリント配布				
<教科書・参考資料> ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、令和 4 年）				
<成績評価> ・期末試験（60%）、製作物（25%）、リアクションペーパー（15%）				
<備考> ・特になし				

保育原理			鈴木 敦	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「保育原理」			
担当教員の実務経験	私立幼稚園にて教諭として勤務。同園にて副園長として勤務 社会福祉法人立保育所にて副施設長として勤務 私立大学教育学部にて非常勤講師として勤務 保育士養成課程専門学校にて非常勤講師として勤務 公立小学校放課後キッズクラブにて運営法人担当理事として勤務 私立幼保連携型認定こども園にて園長として勤務			
<授業概要> 保育を支える基礎理論の習得により保育実践の基礎を培い、幼稚園教諭・保育士・保育教諭に求められる人間性を育むことを目的とする。保育の原理に関する専門的知識や判断力を習得し、幼稚園・保育所・認定こども園の教諭・保育士・保育教諭という専門職の意義を理解することによって使命感や倫理観を育むことをねらいとする。				
<授業の到達目標> 教育や保育、そして子育てを取り巻く社会の変化を考慮しながら人格形成と発達・子どもの理解、子どもにとって望ましい教育保育のありかたについて様々な視点から理論的・実践的に深めていく。さらに現代社会に起こっている教育保育の諸問題について、問題を捉える視点と今後の課題を考察するための姿勢・意識を高めることを目的とする。				
<授業方法> 講義を中心とする。担当教員が日々経験・実践している教育保育現場実情を授業計画に基づき伝えるとともに理論と実践の融合を図る授業を行う。				
<授業計画> 第1回 授業オリエンテーション「保育原理」について授業の概要説明 第2回 保育とは何か 第3回 日本と諸外国の保育とその歴史 第4回 保育実践について 保育実践の基本的構造について 第5回 保育の記録について 第6回 乳児の理解について 第7回 乳児保育の基礎について 第8回 環境による保育とは 第9回 あそびを通して学ぶとは何か 第10回 幼児の理解について 第11回 幼児理解と評価について 第12回 保育の現状と課題 ～幼稚園・保育所の現状～ 第13回 保育の現状と改題 ～幼保連携型認定こども園・その他の教育保育施設の現状～ 第14回 専門職としての保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）のあり方についての考察 第15回 全体のまとめ				
<授業時間外学修> オフィスアワーとして授業前は講師控室、授業終了後教室内で受け付ける				
<テキスト> 『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』 内閣府 フレーベル館 ※その他 適宜必要な資料を授業内で配布する				
<教科書・参考資料> Work で学ぶ保育原理（わかば社）				
<成績評価> 定期試験（レポート） 60%、提出物（課題提出・リアクションペーパー）20% 授業内での貢献度（発表）20% ※提出物は期限厳守、出席は規定通りとする				
<備考> 特になし				

保育実習Ⅰ（施設）			小林 根	
必修科目	実習	2 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	介護施設にて介護福祉士として勤務			
<授業概要> 児童福祉施設等での実習を通じて、養護の必要な子どもや障害児（者）と関わり、施設保育士としての確かな知識、技術を習得する。また、他の専門職との連携や生活環境の整備、地域社会における施設の役割機能について総合的に学ぶ。				
<授業の到達目標> 1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。 2. 観察や関りを通して養護の必要な子どもや障害児（者）の理解を深めることができる。 3. 養護の必要な子どもや障害児（者）及びその家族への支援方法について理解することができる。 4. 施設保育士の業務内容や職業倫理について理解することができる。				
<授業方法> 本校が指定する児童福祉施設や児童相談所（一時保護所）に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の支援方法の実際を学ぶ。				
<実習計画> 1. 施設の役割と機能 （1）施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わりを知る。 （2）施設の生活と一日の流れから児童福祉施設の役割・機能を学ぶ。 2. 子ども・利用者の理解 （1）子どもの観察とその記録を通して理解する。 （2）個々の状態に応じた援助や関わりを理解する。 3. 施設における子ども・利用者の生活と環境。 （1）計画に基づく活動や援助の実際を学ぶ。 （2）子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と対応の方法について学ぶ。 （3）子どもの活動と環境を知る。 （4）健康管理、安全の確保を理解する。 4. 計画と記録 （1）支援計画の理解と活用する方法を理解する。 （2）記録に基づく省察・自己評価ができる。 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 （1）施設保育士の業務内容を理解する。 （2）職員間の役割分担や連携の方法を学ぶ。 （3）保育士の社会的役割と職業倫理を学ぶ。				
<授業時間外学修> 事前オリエンテーションにて施設の概要を把握し、実習に備えた準備をしておく。				
<テキスト> 施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）				
<参考書・参考資料> 2024 年度実習の手引き（聖ヶ丘教育福祉専門学校 実習指導部） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 施設評価 40% 日誌内容 50%、実習報告書 10%				
<備考> 施設実習Ⅰの単位取得のためには、施設実習指導Ⅰの事前指導を3分の2以上出席していなければならない。実習終了後は施設実習指導において事後指導を受けなければならない。				

保育実習Ⅰ（保育所）			田村雅美・清水かおり・大谷康太	
必修科目	実習	2 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	清水：公立保育園にて保育士として勤務 私立保育園にて保育士として勤務 公立こども園にて保育教諭として勤務 私立こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 JICA 海外協力隊にて幼児教育隊員として勤務 田村：保育所にて保育士・主任保育士として勤務			
<授業概要> 保育士資格取得のため、学外の保育実習現場において実習体験を行う。 保育所における保育者の役割と、0 歳から 5 歳児まで年齢の異なる子どもへの関わり方を学ぶ。 乳児期から幼児期の子どもと実際に関わり、子ども理解を深める。 保育所の社会的役割を学ぶ。				
<授業の到達目標> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
<授業方法> 保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。				
<授業計画> 1. 保育所の役割と機能 （1）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり （2）保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 （1）子どもの観察とその記録による理解 （2）子どもの発達過程の理解 （3）子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 （1）保育の計画に基づく保育内容 （2）子どもの発達過程に応じた保育内容 （3）子どもの生活や遊びと保育環境 （4）子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 （1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解 （2）記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携・協働 （3）保育士の役割と職業倫理				
<授業時間外学修> 保育実習Ⅰのスケジュールを把握し、日々の省察を日誌にまとめて翌日の実習にいかす。 実習全体について自己省察し、自らの課題についてまとめる。				
<テキスト> 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2023 年版）				
<参考書・参考資料> 「実習の手引き」（本学の実習参考資料） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> 実習園評価（40%）、日誌（50%）、実習報告書（10%）				
<備考> 保育実習Ⅰ（保育所）の実施は、保育実習指導Ⅰ（保育所）の事前指導の出席要件が授業回数の 3 分の 2 以上を満たしていなければならない。 保育実習指導Ⅰ（保育所）と相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。				

保育実習Ⅱ（施設）			小林 根	
選択必修科目	実習	2 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	介護施設にて介護福祉士として勤務			
<授業概要> 本校が指定する児童福祉施設や児童館などに学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の支援方法の実際を学ぶ。				
<授業の到達目標> 1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、 障害児支援に対する理解をもとに、支援計画の立案・実施を経験し、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。				
<授業方法> 障害児施設等の児童福祉施設に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の個別支援計画の立案や相談支援の実際を学ぶ。				
<授業計画> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 （1）施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わりを知る。 （2）施設の生活と一日の流れから児童福祉施設の役割・機能を学ぶ。 2. 施設における支援の実際 （1）受容し、共感・傾聴する態度を形成する。 （2）個人差や生活環境に伴う子ども・利用者のニーズを把握し、子ども・利用者の理解を深める。 （3）個別支援計画の立案及び作成と実践 （4）子ども（利用者）の家族への相談支援と対応 （5）各施設における多様な専門職との連携・協働 （6）地域社会との連携・協働 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化				
<授業時間外学修> 事前オリエンテーションにて施設の概要を把握し、実習に備えた準備をしておく。				
<テキスト> 施設実習ガイド第2版（ミネルヴァ書房）				
<参考書・参考資料> 2025 年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 施設評価 40% 日誌内容 50%、実習報告書 10%				
<備考> ・施設実習Ⅱの単位取得のためには、施設実習指導Ⅱの事前指導を3分の2以上出席していなければならない。実習終了後は施設実習指導Ⅱにおいて事後指導を受けなければならない。				

保育実習Ⅱ（保育所）			田村雅美・清水かおり	
選択必修科目	実習	2 単位	3 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	清水：公立保育園にて保育士として勤務 私立保育園にて保育士として勤務 公立こども園にて保育教諭として勤務 私立こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 JICA 海外協力隊にて幼児教育隊員として勤務 田村：保育所にて保育士・主任保育士として勤務			
<授業概要> 保育所の役割や機能について、乳幼児理解と個に応じた援助について学ぶ 集団やクラス運営における援助の仕方について学ぶ 計画と環境構成について実践を交えながら理解を深める 実際の家庭・地域との連携について見て学ぶ				
<授業の到達目標> 1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。				
<授業方法> 保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。				
<授業計画> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 （1）養護と教育が一体となって行われる保育 （2）保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育の理解 （1）子どもの心身の状態や活動の観察 （2）保育士等の援助や関わり （3）保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 （2）入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 （3）関係機関や地域社会との連携・協働 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 （1）全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 （2）作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 （1）多様な保育の展開と保育士の業務 （2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化				
<授業時間外学修> 保育実習Ⅱのスケジュールを把握し、日々の省察を日誌にまとめて翌日の実習にいかす。 これまでの実習を省察し、自らの課題についてまとめる。				
<テキスト> 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2023 年版）				
<参考書・参考資料> 「実習の手引き」（本学の実習参考資料） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> 実習園評価（40%）、日誌（50%）、実習報告書（10%）				
<備考> 保育実習Ⅱの実施は、保育実習指導Ⅱの事前指導の出席要件が授業回数の 3 分の 2 以上を満たしていなければならない。 保育実習指導Ⅱと相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。				

保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）			小林 根	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	介護施設にて介護福祉士として勤務			
<授業概要> 保育所以外の児童福祉施設における実習を前に、施設実習の意義や目的を認識し、児童福祉施設の種別や役割機能の理解を深めるため、テキストや資料を活用しながらグループワークや車椅子介助などの演習を取り入れ、実習に向けての事前指導を行うとともに、オリエンテーション時の提出書類の作成、日誌の書き方、実習計画書の作成など、実習に必要な書類等の作成指導を行う。また、実習後は事後指導を行い、実習の振り返りの機会を持つとともに、実習報告書の作成と実習中の体験を発表する。				
<授業の到達目標> 1. 施設実習の意義・目的を理解することができる。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。 3. 実習施設における子どもや障害児（者）の人権と最善の利益を考慮することができる。 4. プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができる。 5. 実習の実践・観察・記録の方法や内容について具体的に理解する。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
<授業方法> 座学だけでなく学生の能動的な学習を促進するため、実習施設の事前把握（調べ学習）を行うとともに、「障害者観」や養護の必要な「子ども観」をテーマにグループワークを実施する。また、その結果をレポートにまとめ、発表の機会を持ち、実習に備える。実習後は報告書を作成し、グループワークにおいて互いの体験を共有する機会を持つ。				
<授業計画> 第1回 施設実習とは（施設実習の意義・目的について） 第2回 施設実習の概要と全体像と施設実習の主な流れ 第3回 施設の種別と目的、形態と役割機能（養護系施設と障害系施設、入所系施設と通所系施設） 第4回 施設における保育士の業務・実習の内容と課題の明確化 第5回 施設を利用する子ども・障害児（者）の理解・子どもの人権と最善の利益の考慮 第6回 障害を持つ子どもの介所方法（車いす操作） 第7回 障害を持つ人の歩行介助（歩行介助・白杖体験） 第8回 実習に際しての留意事項（プライバシーの保護と守秘義務・権利擁護） 第9回 実習に向けての事前学習・施設実習計画書の作成と目標の立て方。 第10回 記録（日誌）の書き方（実習における観察、記録及び評価の方法） 第11回 施設種別ごとの日課と業務・実習の心得と施設職員との関わり 第12回 児童施設における感染症予防とリスクマネジメント 第13回 事前オリエンテーションと実習施設の把握 第14回 実習直前の確認と指導、及び実習後の日誌返却・提出の確認と指導 第15回 事後指導における実習の総括と課題の明確化・振り返りと自己評価・実習報告書作成				
<授業時間外学修> ・予習ノートの作成と提出：テキストの中で授業に関連する部分（10箇所）を事前に指定し、授業前までに感想や気づいたことを書いてもらうノートを作成する。予習ノートの進み具合を確認するため、定期的に提出と返却実施する。 ・施設実習計画書（下書き）の提出を求め、添削の上授業内にて返却し清書させる。清書したものはオリエンテーション当日に他の書類とともに施設へ持参するよう指導している。 ・本校指定の書式で実習の心構えとなる「はじまりにあったって」の提出を求め、添削の上、授業内で返却し清書させる。実習初日に提出するよう指導している。				
<テキスト> 施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）				
<参考書・参考資料> 2024 年度実習の手引き（聖ヶ丘教育福祉専門学校実習部） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 予習ノートの提出（60%）				
<備考> 施設実習指導Ⅰにおいて、事前指導の 3 分の 2 以上を出席しなければ施設実習を行うことはできない。また、施設実習Ⅰの単位認定のためには施設実習指導Ⅰの事後指導を受けなければならない。				

保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）			田村雅美・清水かおり・大谷康太	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	田村：保育所にて保育士・主任保育士として勤務 清水：公立保育園にて保育士として勤務 私立保育園にて保育士として勤務 公立こども園にて保育教諭として勤務 私立こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 JICA 海外協力隊にて幼児教育隊員として勤務			
<授業概要> ・保育実習Ⅰ（保育所）を実施する上で必要な事項について学び、実習の準備をしていく。 ・保育所の役割・機能、また保育者の役割と様々な年齢の子どもへの関わり方の配慮を知る。 ・乳児期から幼児期の成長プロセスを知り、子ども理解を深めると共に、保育士等の専門職の役割や職業倫理についても理解を深める。				
<授業の到達目標> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
<授業方法> 調べ学習を取り入れることで実習園の特徴を事前に捉え、実習のイメージがもてるようにしていく。				
<授業計画> （事前指導） 第1回保育実習Ⅰ（保育所）の意義・目的・内容の理解と心構え 第2回保育所の役割、保育の計画及び評価の理解 第3回子ども理解 乳幼児の発達と保育所の一日 第4回実習課題の立て方 第5回職員間の連携と協働 第6回教材研究の実践 第7回保育者の職業倫理・オリエンテーションに向けて 第8回子どもの生活や遊びと保育環境／日誌の書き方①<環境図> 第9回子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方②<ねらい・時系列> 第10回子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方③<エピソード> 第11回子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方④<本日のねらいと振り返り> 第12回事前指導のまとめと実習後の流れ （事後指導） 第13回実習の振り返り（1）実習の総括と自己評価 第14回実習の振り返り（2）学びの共有と課題の明確化 第15回実習の振り返り（2）園評価伝達と実習Ⅰの学びもまとめ				
<授業時間外学修> テキスト内容や「実習の手引き」（本学の実習参考資料）を繰り返し読み、実習に関する規則や内容について理解しておく。 0歳～就学前の子どもの発達について繰り返し確認しておく。				
<テキスト> 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017年版）				
<参考書・参考資料> 「実習の手引き」（本学の実習参考資料） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 課題・提出物（100％）				
<備考> 保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および保育実習Ⅰ（保育所）の単位修得が必要となる。				

保育実習事前事後指導Ⅱ（施設）			小林 根	
選択必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	介護施設にて介護福祉士として勤務			
<授業概要> 施設実習の意義や目的を再確認し、児童福祉施設の種別や役割機能の理解を深めるため、テキストや資料を活用しながらグループワークを行う。また、施設での実習に向けて事前指導を行うとともに、模擬支援計画書の作成を行う。さらに、部分実習指導案を立案する。また、実習後は事後指導を行い、実習の振り返りの機会を持つとともに、実習報告書の作成と実習の体験を発表する。				
<授業の到達目標> 1. 施設実習Ⅱの意義と目的を理解し、養護の必要な子どもや障害児（者）の支援について総合的に理解できる。 2. 障害児施設等の児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について説明することができる。 3. 子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、支援の目標設定と計画の立案ができる。 4. 保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。 5. 家庭と地域の生活実態を理解し、保護者支援、家庭支援の知識、技術を修得する。 6. 施設実習Ⅱにおける自己の課題を理解できる。				
<授業方法> 座学だけでなく学生の能動的な学習を促進するため、実習施設の事前把握（調べ学習）を行うとともに、事例を通して支援目標の設定と支援計画の立案を行い、対人援助の具体的方法を学ぶ。そして、支援計画書を持ち寄り、グループワークを実施し、他職種連携や担当者会議の実際を学ぶ。また、部分実習の指導案を立案し、プレゼンテーションを行う。実習後は報告書を作成し、グループワークにおいて互いの体験を共有する機会を持つ。				
<授業計画> 第1回 実習の総括と自己評価および課題の明確化 施設実習による総合的な学び 第2回 施設の種別とその機能 第3回 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり（養護系施設） 第4回 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり（障害系施設） 第5回 施設保育士の役割と支援の実践 第6回 支援目標の設定と支援計画の立案および実践(計画と観察、記録、自己評価と改善) 第7回 保育の知識・技術を活かした保育実践 第8回 施設保育士の専門性と職業倫理 第9回 日本保育士会倫理綱領の理解・保育観の形成と深まり 第10回 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第11回 子どもの保育と保護者支援・施設と地域社会との関わり 第12回 実習直前の確認と指導、及び実習後の日誌返却・提出の確認と指導 第13回 事後指導：省察 実習振り返り記入 第14回 事後指導：グループワーク 種別ごとの振り返り 第15回 事後指導：グループワーク 実習報告会				
<授業時間外学修> ・保育実習Ⅰ（保育所）の実習日誌を見直し、施設での1日の流れや子ども・利用者の姿と支援内容の結びつきを学ぶ。 ・子ども・利用者の姿に合った支援に向けて、テキストや図書などを活用しながら、施設利用者児の興味関心に相応しい支援内容を考える。				
<テキスト> 施設実習ガイド第2版（ミネルヴァ書房）				
<参考書・参考資料> 2025年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校実習部） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 提出物 100%				
<備考> ・施設実習指導Ⅱにおいて、事前指導の3分の2以上を出席しなければ施設実習を行うことはできない。また、単位認定のためには施設実習指導Ⅱの事後指導を受けなければならない。 ・第1回目のオリエンテーションには必ず出席すること。				

保育実習事前事後指導Ⅱ（保育所）			田村 雅美・清水かおり	
選択必修科目	演習	1 単位	3 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	田村：保育所にて保育士・主任保育士として勤務 清水：公立保育園にて保育士として勤務 私立保育園にて保育士として勤務 公立こども園にて保育教諭として勤務 私立こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 JICA 海外協力隊にて幼児教育隊員として勤務			
<授業概要> 1. 保育所の役割や機能について保育実習Ⅱを通して理解を深める実習の意義と目的を理解する。 2. 乳幼児の一人ひとりに応じたかかわりと援助方法と、集団やクラス運営における援助方法を明らかにすることによって乳幼児理解と保育の理解について学ぶ。 3. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善と環境構成について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解するとともに、保育士としての自己の課題を明確化する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 6. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児の保育実践力を培うと共に、保護者支援、家庭地域との連携について学ぶ。				
<授業の到達目標> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
<授業方法> 随時ディスカッションなどの意見交換を取り入れ、実習や今後の実践への期待や不安を他者と共有することによって保育現場での学びをより具体的にしていく。 模擬保育を取り入れ、責任実習にむけた準備をより具体的に行う。				
<授業計画> 第1回 保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解 第2回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（1）保育実習Ⅰの課題から 第3回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（2）学びを深める様々な記録形式 第4回 保育実習による総合的な学び 子どもの保育と保護者支援 第5回 実習課題について 第6回 保育士の専門性と職業倫理等、実習に際する留意事項の確認 第7回 オリエンテーションに向けて 第8回 計画と観察、記録、自己評価（1）子どもの実態に沿った具体的な指導計画の立案の仕方 第9回 計画と観察、記録、自己評価（2）子どもの実態に沿った具体的な指導計画の立案 第10回 計画と観察、記録、自己評価（3）立案した指導計画の実践（模擬保育） 第11回 計画と観察、記録、自己評価（4）模擬保育の振り返りと自己課題 第12回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（3）実習計画（事後指導） 第13回 実習の振り返り（1）実習の総括と自己評価 第14回 実習の振り返り（2）学びの共有と再確認（グループワーク） 第15回 実習の振り返り（3）課題の明確化（グループワーク）				
<授業時間外学修> 保育実習Ⅰの実習日誌を見直し、保育所の1日の流れや子どもの姿と保育内容との結びつきを学ぶ。 子どもの姿に合った保育の実践に向けて、テキストや保育図書などを活用しながら、年齢や興味関心に相応しい保育内容を考える。				
<テキスト> 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017 年版）				

＜参考書・参考資料＞

「実習の手引き」（本学の実習参考資料）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）

＜成績評価＞

課題・提出物（100%）

＜備考＞

保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の 3 分の 2 以上に出席すること、および保育実習Ⅱ（保育所）の単位修得が必要となる。

保育内容指導法			田村 雅美	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容総論」			
担当教員の実務経験	保育所にて保育士・主任保育士として勤務			
<授業概要> 1 幼児教育における育みたい資質・能力を理解し、保育所保育指針等 に示された内容から保育の全体構造を学ぶ。 2 幼児の発達や特性を知り主体的・対話的で深い学びに結び付く保育内容指導法の基礎を具体的な事例や実習経験から学び整理する。 3 対象児の発達段階に適した指導計画・環境設定・保育内容を具体的に研究する。				
<授業の到達目標> 1 保育所保育指針における幼児教育の基本と各領域のねらい内容を復習し保育の全体構造を理解する。 2 幼児の特性と発達を理解し幼児の具体的な保育内容から、保育を想定する 3 学びと育ちの連続性（小学校への接続）を知る。 4 保育計画の構成を理解し具体的な保育内容・環境設定を構築してみる。				
<授業方法> 調べ学習・グループワーク				
<授業計画> 第 1 回 授業についてのオリエンテーション・「保育内容」とは 第 2 回 子どもの主体性を尊重した保育 第 3 回 子どもの発達・発達に応じた保育 第 4 回 乳児・1 歳以上 3 歳未満児の保育内容指導法 第 5 回 領域「健康」と保育内容指導法 第 6 回 領域「人間関係」と保育内容指導法 第 7 回 領域「言葉」と保育内容指導法 第 8 回 領域「表現」と保育内容指導法 第 9 回 領域「環境」と保育内容指導法 第 10 回 総合的な保育内容指導 第 11 回 個と集団の育ち 学びの連続性「小学校への接続」をふまえた保育 第 12 回 子どもの姿と指導計画・保育と行事 第 13 回 グループワーク 第 14 回 グループ発表 第 15 回 まとめ・筆記試験領域				
<授業時間外学修> 実習での子どもの姿や保育の振り返り・保育所保育指針等の見直し				
<テキスト> はじめて学ぶ「保育内容の指導法」谷村宏子編著（ミネルヴァ書房）				
<教科書・参考資料> 保育所保育指針・幼稚園教育要領				
<成績評価> 定期試験（50％）演習内容の振り返り・提出物（50％）				
<備考> 特になし				

幼児と音楽表現			野戸智美／高橋拓真	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「幼児と音楽表現」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 幼児期における音楽表現や、発達との関連を理解するための基本的事項を学ぶと共に、実践を通して豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力の向上を目指す。				
<授業の到達目標> 幼児期の表現が生成される過程を理解し、受容することができる。 身体の諸感覚を通して表現の多様性を修得し、表現することの楽しさや可能性、重要性を説明することができる。 協働して表現することを通し、多様な表現を受け止め共感する能力を養うことができる。 音楽遊びを通して豊かな音楽性を育み、幼児の表現活動を展開させる技術を修得することができる。				
<授業方法> グループワーク、発表				
<授業計画> 第1回 ガイダンス、ハンドベル 第2回 ハンドベル 第3回 ハンドベル発表・器楽合奏 第4回 器楽合奏 第5回 器楽合奏 第6回 器楽合奏発表・サウンドスケープ（計画） 第7回 サウンドスケープ（探索） 第8回 サウンドスケープ（記録まとめ・発表） 第9回 サウンドスケープ（楽器作り・お話作り） 第10回 サウンドスケープ（練習・発表） 第11回 コード演奏 第12回 コード試験 第13回 コード試験・まとめ 第14回 保育現場の子どもの音楽表現 第15回 まとめ・筆記試験				
<授業時間外学修> 事後学修として、毎時の振り返り記述を実践・提出すること。				
<テキスト> 『子どものための音楽表現技術－感性と実践力豊かな保育者へー』今泉明美、他 株式会社萌文書林				
<参考書・参考資料> 『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之、他 教育芸術社 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成 20 年 3 月 28 日告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> グループ評価 50%、個人評価 20%、筆記試験 30% 60～69 点を「可」、70～79 点を「良」、80 点以上を「優」として単位認定する。				
<備考> 全ての演習への参加が学修を完遂するための必要条件である。				

幼児と環境			岸本 圭子	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目「環境」		
保育士養成課程の区分		保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」		
担当教員の実務経験		私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務		
<授業概要> 領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関りについての専門的事項における感性を養い、知識・技術を身につける。そのため、現代の幼児を取り巻く環境の変化を理解し、多様化した幼児の生活・遊びに対応できる保育者を目指す。				
<授業の到達目標> 1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。 2) 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。 3) 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。				
<授業方法> プリントに加え、視覚教材や事例を通して学生自身が調べ学習をし、グループワークや体験学習などを通して、実践的に知識や技術を身につける。				
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション(授業概要の説明) 子どもと環境について 第 2 回 理論編 子どもが生きる世界①(幼児を取り巻く環境) 第 3 回 理論編 子どもが生きる世界②(幼児期の体験) 第 4 回 理論編 子どもが生きる世界③(乳幼児期の思考・概念の発達) 第 5 回 内容編 物との関わり① (身近な物との関わりを楽しむ経験) 第 6 回 内容編 物との関わり② (道具・用具との関わりを楽しむ経験) 第 7 回 内容編 生き物との関わり① (植物に関わり親しむ経験) 第 8 回 内容編 生き物との関わり② (虫・小動物との関わりを親しむ経験) 第 9 回 内容編 自然との関わり① (季節の出来事・自然現象に関わる経験) 第 10 回 内容編 自然との関わり② (大自然に触れる経験) 第 11 回 内容編 情報との関わり① (数量・図形に関わり親しむ経験) 第 12 回 内容編 情報との関わり② (標識・文字に関わり親しむ経験) 第 13 回 内容編 情報との関わり③ (社会(情報・施設)に関わり親しむ経験) 第 14 回 幼児期の主体的な学びを育てる環境について 第 15 回 まとめ・試験				
<授業時間外学修> 次回の授業内容に基づき調べ学習(資料やテキストを読む)や、保育教材の準備など行う。 学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。				
<テキスト> 特になし				
<教科書・参考資料> 「幼稚園教育要領解説 (平成 30 年 3 月)」文部科学省 「保育所保育指針解説 (平成 30 年 3 月)」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 30 年 3 月)」内閣府・文部科学省・厚生労働省				
<成績評価> 試験 50% 課題 30% 授業の振り返り 20%				
<備考> 特になし				

幼児と健康			小貫 凌介	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目「健康」		
保育士養成課程の区分		保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」		
担当教員の実務経験		—		
<授業概要> 本科目では、乳幼児の基本的な生活習慣や心身の健康に関する内容、運動的活動に関する内容を中心に、心と体の調和のとれた発達について理解を深める。 健康な生活を営むための幼稚園教諭の役割などについての実践的な内容について学ぶ。				
<授業の到達目標> 1 幼稚園指導要領に示される「健康」の領域のねらいや内容を理解する。 2「健康」の領域を通じて何を育てるべきか、そのためにはどのような援助が必要かについて理解し、心と体の両面の健康課題について把握する。また、安全な生活と怪我の予防に関する具体的な方法について習得する				
<授業方法> 対面授業、講義と実技演習を複合的に行う。				
<授業計画> 第 1 回 ガイダンス（授業概要、受講上の注意点など）・幼児と健康のねらい及び内容 第 2 回 幼児の健康 健康の定義と乳幼児期の健康の意義 第 3 回 体の諸機能の発達と生活習慣の形成 乳幼児の体の発達的特徴 第 4 回 体の諸機能の発達と生活習慣の形成 乳幼児の基本的生活習慣の形成と意義 第 5 回 安全な生活と怪我や病気の予防 幼児の安全教育・健康管理 第 6 回 安全な生活と怪我や病気の予防 幼児期の怪我の特徴や病気の予防、安全管理 第 7 回 幼児期の運動発達と身体活動 乳幼児期の運動発達の特徴と多様な動きを獲得することの意義 第 8 回 幼児期の運動発達と身体活動 日常生活における幼児の動きの経験と配慮 第 9 回 基本的動作と多様な動きの獲得 第 10 回 幼児の運動量と体力：昔と今の比較 第 11 回 身近な環境や遊具を用いた遊び 第 12 回 小型遊具を用いた遊び(ボール・縄・フープ) 第 13 回 大型遊具を用いた遊び（マット・跳び箱・平均台） 第 14 回 全体の振り返り、まとめ 第 15 回 期末試験				
<授業時間外学修> 事後学修として、毎時の振り返り記述を実施し、提出すること。 各自記録する授業ノートおよび配布資料を整理し、復習すること。				
<テキスト> 特になし				
<教科書・参考資料> 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> 期末試験(80%)、授業態度(20%)				
<備考> 特になし				

幼児と言葉			大谷 康太	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項「言葉」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験	－			
<授業概要> 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を学ぶ。また、演習を通じて、保育者として必要な言葉への気づきと発達を育むための専門的技能を身に付ける。				
<授業の到達目標> 1) 人間にとっての言語の意義とその発達過程について説明できる。 2) 言葉の楽しさや美しさを理解したうえで、幼児の言葉の感覚を豊かにするための手立てを考え、実践することができる。 3) 児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）に関する基礎的知識やその意義を理解し、保育を想定した場面で効果的に活用することができる。				
<授業方法> 講義，学生による発表，グループワーク，実技演習等を複合的に行う。				
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 人間と「ことば」 第2回 乳幼児期のことばの発達：前言語期 第3回 乳幼児期のことばの発達：言語期 第4回 保育環境とことばの発達：ことばの発達と環境の関係 第5回 保育環境とことばの発達：ことばに対する感覚を豊かにする働きかけ 第6回 文字言語としてのことばの発達 第7回 遊びとことばの発達，コミュニケーションの発達 第8回 ことばの発達に関わる諸問題 第9回 ことばの発達に関わる支援，第7回までの振り返り 第10回 ことばと想像を育む児童文化財 第11回 児童文化財（物語）の意義と活用 第12回 児童文化財（絵本）の意義と活用 第13回 児童文化財（紙芝居等）の意義と活用 第14回 現代社会を取り巻くことばの発達の諸問題 第15回 振り返り・まとめ				
<授業時間外学修> 学修した内容について授業時間外にも考え、復習をすること。また、日頃から自身や子どもの発する「ことば」に目や耳を向け、その意義や面白さについて考えるようにして欲しい。				
<テキスト> 必要に応じて適宜資料を配布する。				
<参考書・参考資料> 宇野彰(編).(2007).ことばとこころの発達と障害. 永井書店. 広瀬友紀.(2017).ちいさい言語学者の冒険: 子どもに学ぶことばの秘密. 岩波書店 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示, 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示, 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示, 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> レポート 40%, 発表 40%, 授業内での取り組み 20%を基本的配分として総合的に評価する。				
<備考> 特になし				

幼児と身体表現			小貫 凌介	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」		
保育士養成課程の区分		保育の内容・方法に関する科目「幼児と身体表現」		
担当教員の実務経験		—		
<授業概要> 映像資料から幼児の表現について理解をし、様々な表現教材に触れながら、理論と実践を交えて学ぶ。 グループワークで協同的、探求的に学ぶ機会を設定し、実体験を振り返りながら、幼児と身体表現についての理解を深める。				
<授業の到達目標> ・幼児の遊びや生活における領域「表現」について説明できる ・様々な体験を通して感性を豊かにし、感じたことや考えたことを身体と言葉を用いて表現できる ・他者の思いや考えを受容・共感し、協力してより良いアイデアを生み出すことができる				
<授業方法> 対面授業、講義と実技演習を複合的に行う。				
<授業計画> 第 1 回 ガイダンス（授業概要、受講上の注意点など）・幼児と身体表現のねらい及び内容 第 2 回 幼児と身体表現（1） 幼児の身体表現の特徴を知る。 第 3 回 幼児と身体表現（2） 幼児が表現する姿と発達との関係について学ぶ 第 4 回 表現リズム遊び（1） 手遊び指遊びにおける基礎知識・技能を実践的に学ぶ 第 5 回 表現リズム遊び（2） わらべ歌遊びにおける基礎知識・技能を実践的に学ぶ 第 6 回 表現リズム遊び（3） 手遊び指遊びやわらべ歌遊びから表現遊びへ発展させる 第 7 回 自然を諸感覚で感じる体験を通して、自然環境への興味関心を高め、感性を豊かにする。 第 8 回 心動かされた体験からイメージを広げ、言葉や音、動きで幼児の身体表現を理解する。 第 9 回 自然と出会い、表現した実体験からグループ活動を通して、表現を生成する過程について理解する。 第 10 回 身近な素材を使った身体表現（1） 素材から広がる表現の可能性に気付く。 第 11 回 身近な素材を使った身体表現（2） グループで創作する活動を通して、遊びを創作する基礎力を育む。 第 12 回 グループワーク（1） 身近な素材から動きを見つけ、動きの模索を行なう 第 13 回 グループワーク（2）（1）の成果をグループごとに発表する。 第 14 回 全体の振り返り、まとめ 第 15 回 期末試験				
<授業時間外学修> 事後学修として、毎時の振り返り記述を実施し、提出すること。 各自記録する授業ノートおよび配布資料を整理し、復習すること。				
<テキスト> 特になし				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				
<成績評価> 期末試験(80%)、授業態度(20%)				
<備考> 特になし				

幼児と人間関係			清水 かおり	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「人間関係」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験	清水：公立保育園にて保育士として勤務 私立保育園にて保育士として勤務 公立こども園にて保育教諭として勤務 私立こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 JICA 海外協力隊にて幼児教育隊員として勤務			
<授業概要> 現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。				
<授業の到達目標> 1. 領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。 2. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 3. 幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。				
<授業方法> ・講義を踏まえた調べ学習をし、発表をした上で幼児をとりまく多様な人間関係について理解を深めていく。 ・グループディスカッションによって他者の意見に関心をもち、自分の考えに取り込んでいく。				
<授業計画> 第1回 現代社会と幼児の人間関係 第2回 家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの 第3回 3歳未満児における人間関係の発達 第4回 身近な大人との関係を基盤とした育ち 第5回 幼児期の遊びや生活の中にある人と関わる力の育ち 第6回 個と集団における人間関係の育ち 第7回 乳幼児期の自立心の育ち 第8回 自我の芽生えを基盤とした自立への道 第9回 幼児期の協同性の育ち 第10回 目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち 第11回 幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち 第12回 他者との葛藤体験をする必要性の理解と、気持ちを調整する力の育ち 第13回 乳幼児期の人間関係の拡大 第14回 家庭・園・地域へと拡大する生活の場と関係性 第15回 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係				
<授業時間外学修> 前回の授業ノートや資料を熟読し、自分の言葉で説明できるようにしておく。				
<テキスト> 『子どもの姿からはじめる領域・人間関係』（秋田喜代美 三宅茂夫 株式会社みらい）				
<参考書・参考資料> 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）				
<成績評価> 授業内提出物（30%） レポート（30%） 課題発表（40%）				
<備考> 特になし				

幼児と造形表現			羽田 顕佑	
必修科目	演習	1 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「幼児と造形表現」			
担当教員の実務経験	—			
<授業概要> 表現行為の基本的性質および子どもの発達段階に応じた表現の姿を、特に造形分野における「ものとの関わり」に着目しながら学ぶ。感性や創造性を育む子どもの表現過程を支える知識・態度を教育者としての基本的資質と捉え、学習者自身による造形表現の実体験的理解を伴いながら獲得することを目指す。				
<授業の到達目標> 1. 領域「表現」の位置付けや教育的意義について理解している。 2. 表現の発達過程に関する理解により、乳幼児期の表現に適切な受容・共感ができる。 3. 素材に呼応する造形表現の性質について、身体の諸感覚を駆使した体験に基づき理解している。 4. 表現過程を構成する諸要素の働きに基づき、具体的な表現の事例や姿について分析・検討できる。				
<授業方法> 講義と実技演習を複合的に行う。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。				
<授業計画> 第1回 【講義】 ガイダンス（授業概要、受講上の注意点など）／表現領域のねらい及び内容 第2回 【講義】 造形分野の視点から捉える人間の発達の特質 第3回 【講義】 心身の育ちに応じた表現発達過程（描画の発達段階） 第4回 【演習】 描画の発達段階の追体験①描画遊びと制作 第5回 【演習】 描画の発達段階の追体験②描画から表現への発展 第6回 【講義】 前半まとめ（講義内容小テスト）／演習ガイダンス 第7回 【演習】 感触的な描画①フィンガーペインティング 第8回 【演習】 感触的な描画②クレパスと支持体、砂絵の具 第9回 【演習】 水粘土による表現：素材の生成、手の思考、量で遊ぶ 第10回 【演習】 紙と用具（刃物）の取り扱い、表現への発展 第11回 【演習】 新聞紙とダンボールで遊ぶ（協働的活動） 第12回 【講義】 演習の振り返り／最終課題の導入 第13回 【演習】 ペアワーク：素材の探求／表現過程の観察①演習活動 第14回 【演習】 ペアワーク：素材の探求／表現過程の観察②観察レポート作成 第15回 【演習】 ペアワーク：素材の探求／表現過程の観察③まとめ				
<授業時間外学修> 事後学修として、毎時の振り返り記述を実施・提出すること。また、各自記録する授業ノートおよび配布資料を照応・整理する機会を設けること。 事前学習として、資料の参照を指示する場合がある。				
<テキスト> 平田智久(監)、小野和、宮野周(編著)『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』、教育情報出版				
<教科書・参考資料> 松岡宏明、『子供の世界 子供の造形』、三元社 幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省）				
<成績評価> 1. 活動成果・記録(50%) 3. 小テスト(20%) 4. 最終課題(30%)				
<備考> 全ての演習への参加・所定の課題提出が、学修を完遂するための必要条件です。 実技演習を行うにあたり、教員が示す活動に適した身支度と準備を整えること。				

倫理学			川久保 学	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語、体育以外の科目」			
担当教員の実務経験	神奈川県立高校にて専任教員として勤務 横浜国立大学にて非常勤講師として勤務			
＜授業概要＞ 西洋の倫理思想の流れを概観し、それらが現代社会における倫理問題とどう結びつくのかを考える				
＜授業の到達目標＞ さまざまな倫理思想の基本的な考え方を理解し、日常生活で直面する諸課題の解決に役立てる				
＜授業方法＞ パワーポイントで説明、配布されるプリントを各自完成させる				
＜授業計画＞ 第 1 回 西洋古代思想 1（ギリシャ思想） 第 2 回 西洋古代思想 2（ギリシャ思想） 第 3 回 西洋古代思想 3（ヘレニズム思想） 第 4 回 キリスト教 1 第 5 回 キリスト教 2 第 6 回 キリスト教 3 第 7 回 西洋近代思想 1（ルネサンス期） 第 8 回 西洋近代思想 2（経験論と合理論） 第 9 回 西洋近代思想 3（社会契約説） 第 10 回 西洋近代思想 4（功利主義と義務論） 第 11 回 現代の諸課題 1（生命倫理） 第 12 回 現代の諸課題 2（生命倫理） 第 13 回 現代の諸課題 3（生命倫理） 第 14 回 現代の諸課題 4（家族倫理） 第 15 回 現代の諸課題 5（家族倫理）				
＜授業時間外学修＞ 現代の倫理的な諸課題での各自関心を持ったテーマについてまとめておく				
＜テキスト＞ 特になし				
＜参考書・参考資料＞ 特になし				
＜成績評価＞ 試験及び提出物で総合的に評価				
＜備考＞ 色鉛筆（5 色程度）とのりを用意				